

(様式第10)

獨醫大病庶庶癸第32号

令和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園

理事長 猪口 雄二

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
氏名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
電話(0282) 86 — 1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心臓・血管内科	2	血液・腫瘍内科	3	内分泌代謝内科	4	脳神経内科	5	呼吸器・アレルギー科
6	形成外科・美容外科	7	頭頸部・耳鼻咽喉科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42				1,153	1,195

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	520	17.5	537.5	看護補助者	65	診療エックス線技師	0
歯科医師	16	1.2	17.2	理学療法士	39	臨床検査技師	97
薬剤師	86	3.2	89.2	作業療法士	8	衛生検査技師	0
保健師	0	0.9	0.9	視能訓練士	9	その他	0
助産師	41	2.4	43.4	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,040	69	1,109	臨床工学士	36	医療社会事業従事者	13
准看護師	1	0	1	栄養士	0	その他の技術員	22
歯科衛生士	5	1.8	6.8	歯科技工士	0	事務職員	247
管理栄養士	14	0.9	14.9	診療放射線技師	79	その他の職員	54

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	14
外科専門医	40	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	4	放射線科専門医	4
小児科専門医	15	脳神経外科専門医	14
皮膚科専門医	12	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	13
産婦人科専門医	10	救急科専門医	15
		合計	222

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 麻生 好正) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員(平成30年4月1日～令和8年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	922.2 人	14 人	936.2 人
1日当たり平均外来患者数	1,964.7 人	88.1 人	2,052.8 人
1日当たり平均調剤数			1,547.2 剤
必要医師数			214 人
必要歯科医師数			7 人
必要薬剤師数			32 人
必要(准)看護師数			538 人

- (注)
- 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 - 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 - 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 - 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 - 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	800 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	19 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	436	㎡	病床数	34 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積			35	㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	288 ㎡		(主な設備)	フロントエンド分注装置 IDS-CLAS3600 1式 自動搬送システム Aptio Automation 1式 化学・免疫化学複合自動分析装置 Atellica Sccei 3台 純水装置 6台 免疫自動分析装置 Dimemsion EXL200 2台 免疫血清自分析装置ルミパルスL2400 2台 血液ガス分析装置 ラピッドポイント500a 3台 血液ガス分析装置マネジメントシステム 1台 尿定性自動分析装置 US-3500 1台 自動血球分析装置 XN-3100 (XN-20×4) 2式 自動血球分析装置 XN-350 1台 フローサイトメーター Cytomics FC 500 1台 凝固・線溶自動分析装置 CS-5100 2台 血液・凝固・線溶検査検体並べ替え装置 TS-10 1台 赤血球沈降速度(血沈)検査測定装置 Quick eye 2台 多本架遠心分離機 H-80R H-36α 9台 遠心分離機 H-103N 2台 浸透圧測定装置 オズモステーション 1台 ESアナライザー 1台 分光光度計 日立7012 1台 顕微鏡 7台 冷凍庫 2台 インキュベーター 1台		
細菌検査室	90 ㎡		(主な設備)	安全キャビネット 5式 血液培養装置 3台 遺伝子解析装置 4台 自動核酸精製装置 2台 微生物同定感受性分析装置 WalkAway 1式 自動菌液分注装置 オートノリック BRIDE 1式 微生物分類同定分析装置 MALDI バイオタイパー 1式 顕微鏡(位相差、蛍光、ディスカッション) 3台 冷凍庫 2台 孵卵器 インキュベーター 7台		
病理検査室	266 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置 1台 感染防止機能付きクリオスタット 2台 密閉式自動固定包埋装置 3台 パラフィン包埋ブロック作製装置 3台 自動染色装置 1台 感染防止対策用切り出し台 1台 安全キャビネット 1台 クリーンベンチ 1台 等		
病理解剖室	80 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染防止対策用解剖台 2台 医用写真撮影装置 1台 等		
研究室	21,154 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	机、PC、コピー機、書棚 等		
講義室	288 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	240 人
図書室	5,895 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	242,684 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		83.8	%	逆紹介率		62.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	22, 596				人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20, 046				人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4, 186				人	
	D: 初診の患者の数	31, 943				人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	済生会宇都宮病院 病院長	○	・医療に関わる安全管理に関する識見を有する者・済生会宇都宮病院長であり、病院管理者として医療安全管理に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有しているため	無	1
菊池 不佐男	菊池法律事務所弁護士		・法律に関する識見を有する者・弁護士として医療関係(医療機関側)を中心とした豊富な経験に基づく十分な実績がある識者のため	無	1
関根 房三	社会福祉法人 社会福祉協議会会長		・医療を受ける者の代表者・栃木県保健福祉部出身の識者であり医療を受けている立場で意見することが出来るため	無	2
石田 和之	獨協医科大学 病理診断学教授		・医療に関する学識経験者・病理学診断学・教授として医療に関する豊富な経験を有しており、内部監査室長の経験を有しているため	有	1
小飼 貴彦	獨協医科大学ゲノム診断・臨床検査医学教授		・医療に関する学識経験者・ゲノム診断・臨床検査医学・教授として病気の診断や治療経過の評価に必須な検査に携わり客観的立場で監査することが可能であるため	有	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	56人
子宮内細菌叢検査2	11人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	2
扱い患者数の合計(人)	67人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
取り扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	膠原病の重症臓器病変に対する免疫抑制薬・分子標的薬を用いた集学的	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 膠原病の重症臓器病変に対し、グルココルチコイド・免疫抑制薬・分子標的薬を組み合わせ、集学的な治療・モニタリングを行う。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌が対象である。術式は肝部分切除、肝外側区域切除、肝亜区域切除、肝左葉(左肝)切除までとしている。			
医療技術名	ロボット支援肝切除	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌が対象である。術式は肝部分切除、肝外側区域切除までとしている。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 低悪性度膵腫瘍(郭清なし)とT1膵癌(郭清あり)を対象としている。			
医療技術名	ロボット支援膵体尾部切除	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 低悪性度膵腫瘍(郭清なし)とT1膵癌(郭清あり)を対象としている。			
医療技術名	ロボット支援膵頭十二指腸切除	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 低悪性度膵腫瘍(郭清なし)を対象としている。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 末期肝不全患者を対象とし、保険診療の範囲内で診療を行っている。生体ドナーから左肝または右肝グラフトを摘出し、レシピエントに移植する。背景疾患はウイルス性肝炎、肝細胞癌、自己免疫性疾患、急性肝障害などである。			
医療技術名	生体腎移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 腎不全患者を対象とし、保険診療の範囲内で診療を行っている。生体ドナーから片腎グラフトを摘出し、レシピエントの後腹膜腔に移植する。あらゆる疾患による腎不全が対象となる。			
医療技術名	脳死膵腎移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 1型糖尿病患者を対象とし、脳死ドナーから膵および片腎の提供を受ける。レシピエントの骨盤腔内に膵を、左後腹膜腔に腎を移植する。			
医療技術名	ルタテラを用いたペプチド受容体核医学内用療法	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 ソマトスタチン受容体陽性切除不能神経内分泌腫瘍に対する放射線治療であり、専用病室を使用して実施する。			
医療技術名	小耳症耳介挙上術及び鼓室形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 耳鼻科と形成外科合同で小耳症に対して形態、機能の両面の治療を行っている。			

医療技術名	HLA半合致同種造血幹細胞移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 従来は、ヒト白血球抗原 (HLA) 一致ドナーが得られない場合は同種造血幹細胞移植の実施は困難だった。近年になり一部の移植施設では免疫抑制剤の工夫などによりHLA半合致ドナーからも移植を行うことが可能となっている。			
医療技術名	気管支鏡検査におけるクライオバイオプシー	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 経気管支鏡に先端が凍結する鉗子を挿入し標的組織を採取することで従来の生検鉗子と比較して病理検体のサイズや深さが大きい検体が採取出来るので病理診断率が上がる。			
医療技術名	気管支温熱療法(気管支サーモプラスチック)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 気管支喘息患者の気管支に内腔から熱を加えることで、気管支平滑筋を減少させ、気管支の狭窄を軽減する。			
医療技術名	気管支狭窄拡張術(気管支バルーン拡張術)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 狭窄した気管支に対して、気管支内腔よりバルーンを挿入し、狭窄部位で拡張させることにより、狭窄の改善を図る。			
医療技術名	気管支充填術(EWS)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性気胸に対して、気管支内腔からEWSと呼ばれるシリコン性の器具を挿入し、気胸孔への空気の流れを遮断する。			
医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの			
医療技術名	生体肺移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 慢性高級不全症例に親族より肺葉を摘出し移植したもの			
医療技術名	肝芽腫に対するソナゾイドを用いた肝S5,6部分切除	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児では肝芽腫に対する根治的な切除は葉切除がメインであるが、当該症例では部分切除が可能であり、ソナゾイドを用いたナビゲーション手術(病変と正常肝のコントラストをはっきりさせる)による高難度な肝切除術を施行した			
医療技術名	肝芽腫肺転移巣のICG併用ナビゲーション手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肝腫瘍の肺転移巣をICG蛍光法によって病巣を光らせて可視化し、微小病変も取り残さずに切除する高難度手術			
医療技術名	体重1000g未満の超低出生体重児の消化管手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 体重が1000gに満たない超低出生体重児の消化管閉塞症状や消化管穿孔に対する手術。麻酔管理、術後NICU管理を含めて繊細で高度な技術が必要である			
医療技術名	胆道閉鎖症手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 胆道閉鎖症は胎児期から乳児期早期に発症する主に肝外胆管の閉塞を来す疾患であり、生後2ヶ月以内に胆汁流出を図る手術(肝門空腸吻合術)を行う			
医療技術名	腹腔鏡下胆道拡張症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 従来開腹手術で行われていた拡張胆管切除および肝管空腸吻合術を鏡視下で行う高度な技術を要する手術			
医療技術名	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 従来開胸または開腹手術で行われていた横隔膜ヘルニアに対する手術を胸腔鏡下で行う高度な技術を要する手術			

医療技術名	進行胃癌に対するDOS併用化学療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 高度リンパ節転移を有する進行胃癌に対して、術前化学療法Docetaxel, Oxaliplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いた、ロボット支援腹腔鏡胃癌手術	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 3D立体画像下で複雑かつ細かな手技が可能で、多関節機能を有し、手ぶれがないため、より安全かつ低侵襲な手術が行うことが可能となる。			
医療技術名	腹腔鏡下胃スリーブ状切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 BMI35以上の高度肥満症例に対する腹腔鏡下胃スリーブ状切除術は、術前から内分泌内科、麻酔科、精神科、リハビリ科、栄養科などの他職種との連携が必要であり、内臓脂肪も多いことから手技的にも難易度が高い。			
医療技術名	術前化学療法後の大動脈周囲リンパ節郭清術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 大動脈周囲リンパ節転移のある症例に術前化学療法を施行し、その後大動脈周囲リンパ節の系統的郭清を行う。大動脈周囲リンパ節郭清は、難易度も高いが、根治も期待できる。			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 低肺機能や高齢などの理由により経胸的食道切除が困難な食道癌患者に対して、頸部および食道裂孔からの気縦隔操作によって十分な視野を確保しつつ縦隔郭清を伴う食道切除を行う術式である。			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いたロボット支援食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 食道癌に対してロボット支援下に手術を行うことで精緻な食道切除およびリンパ節郭清が可能である。従来の胸腔鏡下食道切除術に比較して反回神経に対して愛護的な操作ができるため、嚥声、誤嚥性肺炎の発生予防に寄与するものである。			
医療技術名	食道癌に対するドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)併用放射線療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 進行食道扁平上皮癌に対して標準とされているシスプラチン、フルオロウラシル(CF)併用放射線療法にドセタキセルを加えることで高い抗腫瘍効果を発揮する。有害事象も多いため、放射線治療計画を含めた専門施設での適切なマネジメントが必要である。			
医療技術名	低侵襲心臓手術(ロボット手術を含む)	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 右開胸による小切開での心臓手術、ロボット手術は2例			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	85
当該医療技術の概要 カテーテルによる大動脈弁置換術			
医療技術名	左室補助人工心臓	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 重症心不全に対して左室補助人工心臓植え込み			
医療技術名	重度脊柱変形に対する脊柱骨切り再建術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 先天性側弯症などの重度側弯症に対する前方後方合併脊柱骨切術を併用した矯正固定術を行う			
医療技術名	早期発症側弯症に対するグローイングロッド手術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 10歳未満の早期発症重度側弯症に対し、延長可能なロッドシステムを利用した経時的脊柱延長矯正術を行う			
医療技術名	ロボット支援脊椎手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			

医療技術名	ロボット支援人工関節置換術	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
医療技術名	ホスレボドパ・ホスカルビドパ持続皮下注(ヴィアレブ)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
パーキンソン病患者に対して専用の輸液ポンプを介して24時間持続的に皮下に薬剤を投与する。血中の薬剤濃度を安定化させることで、症状の日内変動を軽減することが期待される。			
医療技術名	修正型電気痙攣療法	取扱患者数	36
当該医療技術の概要			
100ボルト前後の電流を頭部に短時間通電することを反復し、各種の精神症状の改善を図る療法である。マスクまたは気管挿管による閉鎖式全身麻酔を麻酔科医師と共同して精神科医師が施行する。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
左前頭前野(背外側前頭前野)に対して、10-20Hzの磁気による高頻度刺激を行うことで大脳皮質興奮性を増強させ、抑うつ状態の改善を図る。			
医療技術名	認知行動療法	取扱患者数	22
当該医療技術の概要			
一連の治療計画を策定し、患者に対して詳細な説明を行った上で、当該療法に関する研修を受講するなど当該療法に習熟した医師によって、30分を超えて各種疾患(うつ病、強迫性障害など)に対して、16回程度のセッションで行う。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	90
当該医療技術の概要			
経カテーテル大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)は、重症の大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的に生体弁を大動脈弁に留置する治療法であり、開胸術がハイリスクな症例に対して新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」	取扱患者数	23
当該医療技術の概要			
経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」(以下、マイトラクリップ)は、低侵襲性の経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用いた重症僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法である。マイトラクリップにより開胸術がハイリスクである重症僧帽弁閉鎖不全症の新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	経皮的卵円孔改善閉鎖術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
奇異性脳塞栓症の原因となる卵円孔開存に対する新たな低侵襲治療として経皮的卵円孔閉鎖術が開始され、奇異性脳塞栓の再発予防効果が期待できます。			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	25
当該医療技術の概要			
リードレスペースメーカーは、経カテーテル的に右心室に直接小型のペースメーカーを留置する方法である。経静脈ペースメーカー植え込み術における、リード、あるいは皮下ポケット関連の合併症を克服している。			
医療技術名	植え込み型除細動器(Implantable Cardioverter Defibrillator: ICD)	取扱患者数	31
当該医療技術の概要			
ICDは、心疾患の種類にかかわらず致死の頻脈性不整脈による心臓突然死を予防し生命予後を改善する、もっとも有効かつ確立された治療法の1つである。最近では皮下植え込み型除細動器(S-ICD)や着用型自動除細動器(WCD)も登場してライフスタイルに合わせた治療の選択肢が広がっている。			
医療技術名	心臓再同期療法(Cardiac Resynchronization Therapy: CRT, CRT-D)	取扱患者数	37
当該医療技術の概要			
心臓の伝導障害により、房室間、心室内、あるいは心室間同期不全が心不全の一因として存在する場合、心臓再同期療法は同期不全を解消し、心不全悪化を防止あるいは心機能を向上させ、自覚症状や予後の改善をもたらす治療法である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	84
当該医療技術の概要			
光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			

医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	血管内超音波法(Intravascular Ultrasound: IVUS)を用いた冠動脈形成術	取扱患者数	475
当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用する近赤外分光法-血管内超音波検査(NIRS-IVUS)は冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)を用いた心源性ショック治療	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 Impellaは経皮的に左室内に留置可能なポンプカテーテルであり、補助人工心臓と同等の機能を持つ。心負荷軽減と心筋循環改善による心機能改善効果が期待され、短期間であるが経皮的に導入可能であるためショック時の対応が迅速かつ低侵襲に装着可能である。			
医療技術名	血管造影を用いた超音波内視鏡ガイド下血管塞栓術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下で胃静脈瘤を直接観察し、通常腫瘍や出血に対する経血管的治療に用いられている血管塞栓用コイル、及び食道静脈瘤硬化療法で用いる硬化剤を静脈瘤内腔に留置及び注入し、胃静脈瘤血流の制御・塞栓を行う治療法。なお、本治療法は、仮性動脈瘤や難治性消化管出血等にも応用できる。			
医療技術名	消化管瘻孔・膿瘍に対する組織接着剤注入法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 消化管穿孔に伴う瘻孔・膿瘍形成している部位に対して組織接着剤として使用されているヒストアクリルを注入し、穿孔部位の閉塞のみならず、膿瘍腔を組織接着剤で置換することでにより完全閉鎖を目的とする治療法。			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児の難治性造血器腫瘍、及び小児がんに対し自己末梢血幹細胞、非血縁者間造血幹細胞移植を用いた超大量化学療法を行った。			
医療技術名	若年性特発性関節炎への生物学的製剤の導入	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
医療技術名	小児炎症性腸疾患に対する分子標的薬	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
医療技術名	小児高安動脈炎に対する生物学的製剤	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
医療技術名	重症小児アトピー性皮膚炎に対する分子標的薬	取扱患者数	83
当該医療技術の概要 重症小児アトピー性皮膚炎に対し生物学的製剤やJAK阻害			
医療技術名	重症小児気管支喘息に対する生物学的製剤	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 重症小児気管支喘息に対する生物学的製剤			

医療技術名	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 通常の内視鏡下の手術では開放が困難な前頭洞病変に対して用いられる手術である。			
医療技術名	下咽頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部などの操作による再建を含む)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 進行下咽頭癌に対して行われる摘出、再建手術である。			
医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 下咽頭の表在癌に対して消化器内科と合同で内視鏡下に切除する手術である。			
医療技術名	舌下神経電気刺激装置植え込み術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 閉塞性睡眠時無呼吸症候群におけるCPAP無効症例に対して行われる新しい手術である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	64
取扱い患者数の合計(人)	1378

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	7	56	多発性嚢胞腎	34
2 筋萎縮性側索硬化症	29	57	黄色靱帯骨化症	3
3 脊髄性筋萎縮症	4	58	後縦靱帯骨化症	54
4 原発性側索硬化症	5	59	広範脊柱管狭窄症	3
5 進行性核上性麻痺	20	60	特発性大腿骨頭壊死症	26
6 パーキンソン病	279	61	下垂体性ADH分泌異常症	16
7 大脳皮質基底核変性症	9	62	下垂体性TSH分泌亢進症	2
8 ハンチントン病	3	63	下垂体性PRL分泌亢進症	8
9 シャルコー・マリー・トウス病	9	64	クッシング病	8
10 重症筋無力症	123	65	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	31
11 先天性筋無力症候群	1	66	下垂体前葉機能低下症	138
12 多発性硬化症／視神経脊髄炎	110	67	甲状腺ホルモン不応症	1
13 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	29	68	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
14 封入体筋炎	4	69	アジソン病	3
15 クロウ・深瀬症候群	2	70	サルコイドーシス	117
16 多系統萎縮症	38	71	特発性間質性肺炎	107
17 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	71	72	肺動脈性肺高血圧症	39
18 ライソゾーム病	10	73	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	41
19 ミトコンドリア病	5	74	リンパ脈管筋腫症	6
20 もやもや病	22	75	網膜色素変性症	31
21 亜急性硬化性全脳炎	1	76	特発性門脈圧亢進症	1
22 進行性多巣性白質脳症	1	77	原発性胆汁性肝硬変	19
23 全身性アミロイドーシス	23	78	原発性硬化性胆管炎	4
24 遠位型ミオパチー	2	79	自己免疫性肝炎	13
25 神経線維腫症	24	80	クローン病	196
26 天疱瘡	20	81	潰瘍性大腸炎	482
27 表皮水疱症	2	82	好酸球性消化管疾患	20
28 膿疱性乾癬(汎発型)	13	83	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
29 スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	84	全身型若年性特発性関節炎	2
30 中毒性表皮壊死症	1	85	先天性ミオパチー	8
31 高安静脈炎	34	86	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
32 巨細胞性動脈炎	28	87	筋ジストロフィー	25
33 結節性多発動脈炎	13	88	脊髄空洞症	5
34 顕微鏡的多発血管炎	66	89	脊髄髄膜瘤	4
35 多発血管炎性肉芽腫症	20	90	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1
36 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	43	91	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
37 悪性関節リウマチ	3	92	前頭側頭葉変性症	5
38 パージャール病	2	93	ビッカーstaff脳幹脳炎	1
39 原発性抗リン脂質抗体症候群	15	94	先天性無痛無汗症	1
40 全身性エリテマトーデス	326	95	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1
41 皮膚筋炎／多発性筋炎	167	96	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
42 全身性強皮症	147	97	レノックス・ガストー症候群	3
43 混合性結合組織病	59	98	ウエスト症候群	1
44 シェーグレン症候群	192	99	結節性硬化症	4
45 成人スチル病	23	100	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	26
46 再発性多発軟骨炎	4	101	特発性後天性全身性無汗症	10
47 ベーチェット病	107	102	マルファン症候群	8
48 特発性拡張型心筋症	102	103	エーラス・ダンロス症候群	1
49 肥大型心筋症	12	104	ウィルソン病	3
50 再生不良性貧血	33	105	モワット・ウィルソン症候群	2
51 自己免疫性溶血性貧血	7	106	ウィリアムズ症候群	1
52 発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	107	無脾症候群	1
53 特発性血小板減少性紫斑病	48	108	ソトス症候群	1
54 原発性免疫不全症候群	14	109	ヌーナン症候群	1
55 IgA腎症	29	110	総動脈幹遺残症	1

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	完全大血管転位症	1			
112	急速進行性糸球体腎炎	4			
113	一次性ネフローゼ症候群	40			
114	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1			
115	紫斑病性腎炎	4			
116	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2			
117	オスラー病	1			
118	閉塞性細気管支炎	2			
119	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4			
120	副甲状腺機能低下症	2			
121	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1			
122	尿素サイクル異常症	1			
123	家族性地中海熱	2			
124	強直性脊椎炎	6			
125	骨形成不全症	1			
126	リンパ管腫症/ゴーハム病	1			
127	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1			
128	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1			
129	後天性赤芽球癆	3			
130	エプスタイン症候群	2			
131	胆道閉鎖症	1			
132	遺伝性腭炎	2			
133	嚢胞性線維症	1			
134	IgG4関連疾患	22			
135	黄斑ジストロフィー	1			
136	好酸球性副鼻腔炎	382			
137	遺伝性自己炎症疾患	1			
138	無虹彩症	2			
139	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1			
140	特発性多中心性キャッスルマン病	10			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	140
合計患者数(人)	4,400

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 医療DX推進体制整備加算	・ バイオ後続品使用体制加算
・ 特定機能病院入院基本料 (一般7:1 精神病棟13:1) 入院栄養管理体制加算	・ 感染対策向上加算1
・ 救急医療管理加算	・ 重症患者初期支援充実加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 報告書管理体制加算
・ 診療録管理体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 医師事務作業補助体制加算1 (25対1補助体制加算)	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 急性期看護補助体制加算	・ データ提出加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 入退院支援加算1
・ 療養環境加算	・ 認知症ケア加算1
・ 重症者等療養環境特別加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 無菌治療室管理加算1	・ 精神疾患診療体制加算
・ 無菌治療室管理加算2	・ 精神科急性期医師配置加算2 イ
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 排尿自立支援加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料3
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 救命救急入院料4
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 特定集中治療室管理料3
・ 栄養サポートチーム加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 医療安全対策加算1	・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・ 感染防止対策加算1	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 患者サポート体制充実加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ 小児入院医療管理料1
・ ハイリスク妊娠管理加算	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ ハイリスク分娩管理加算	・ 歯科外来診療感染対策加算3
・ 呼吸ケアチーム加算	・ 歯科診療特別対応連携加算
・ 後発医薬品使用体制加算1	・ 歯科外来診療安全対策加算2

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 外来排尿自立指導料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ ウイルス疾患指導料	・ 医療機器安全管理料1、2、
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 救急患者連携搬送料
・ 高度難聴指導管理料	・ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
・ 糖尿病合併症管理料	・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料 難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん患者指導管理料イ、ロ、ハ	・ 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・ 外来緩和ケア管理料	・ 持続血糖測定器加算(間けつ注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ BRCA1／2遺伝子検査
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 腎代替療法指導管理料	・ 遺伝学的検査
・ 一般不妊治療管理料	・ 染色体検査の注2
・ 生殖補助医療管理料1	・ 先天性代謝異常症検査
・ 二次性骨折予防継続管理料1、3	・ 自己抗体検査 抗HLA抗体(スクリーニング検査)
・ 下肢創傷処置管理料	・ 微生物核酸同定・定量検査 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料	・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・ 外来栄養食事指導料(注2)(注3)	・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・ 外来腫瘍化学療法診療料1 連携充実加算	・ 検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)
・ がん薬物療法体制充実加算	・ 検体検査判断料 国際標準検査管理加算
・ 外来放射線照射診療料	・ 検体検査判断料 遺伝カウンセリング加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 検体検査判断料 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ 療養・就労両立支援指導料 相談支援加算	・ 植込型心電図検査
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1、2、	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ こころの連携指導料(Ⅱ)	・ 超音波検査 心臓超音波検査 胎児心エコー法診断加算

・ がん治療連携計画策定料1	・ ヘッドアップティルト試験
・ 認知症専門診断管理料1	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 終夜睡眠ポリグラフィー 安全精度管理下で行うもの	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 脳波検査判断料1	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 単線維筋電図	・ 摂食嚥下機能回復体制加算2
・ 神経学的検査	・ がん患者リハビリテーション料
・ 補聴器適合検査	・ 経頭蓋磁気刺激療法
・ 全視野精密網膜電図	・ 救急患者精神科継続支援料
・ ロービジョン検査判断料	・ 認知療法・認知行動療法1
・ コンタクトレンズ検査料1	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 医療保護入院等診療料
・ 内服・点滴誘発試験	・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・ センチネルリンパ節生検(片側) 併用法	・ 多血小板血漿処置
・ センチネルリンパ節生検(片側) 単独法	・ 硬膜外自家血注入
・ 経頸静脈的肝生検	・ エタノールの局所注入(甲状腺)
・ 経気管支凍結生検法	・ エタノールの局所注入(副甲状腺)
・ ポジトロン断層撮影	・ 人工腎臓 透析液水質確保加算及び慢性透析濾過加算
・ ポジトロン断層撮影 (アミロイドPETイメージング剤を用いた場合)	・ 人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 人工腎臓 導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 (アミロイドPETイメージング剤を用いた場合)	・ 心不全に対する遠赤外線温熱療法
・ コンピューター断層撮影(CT撮影) CT撮影	・ 磁気による膀胱等刺激法
・ コンピューター断層撮影(CT撮影) 冠動脈CT撮影加算	・ 皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
・ 血流予備量比コンピューター断層撮影	・ 自家脂肪注入
・ 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影) 心臓MRI撮影加算	・ 組織拡張器による再建手術(一連につき) 乳房(再建手術)の場合
・ 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)	・ 骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法(一連として)
・ 画像診断管理加算1	・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)自家培養軟骨移植術
・ 遠隔画像診断	・ 人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
・ 処方料 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ 処方箋料 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 椎間板内酵素注入療法
・ 無菌製剤処理料	・ 緊急穿頭血腫除去術

・ 外来化学療法加算1	・ 内視鏡下脳腫瘍生検術 内視鏡下脳腫瘍摘出術
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡 下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉 鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視 鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 仙骨神経刺激装置植込術(便失禁) 仙骨神経刺激装置交換術	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 舌下神経電気刺激装置植込術	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 角結膜悪性腫瘍切除手術	・ 経皮的冠動脈ステント留置術
・ 治療の角膜切除術 エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 角膜移植術 内皮移植加算	・ 経カテーテル弁置換術
・ 羊膜移植術	・ 胸腔鏡下弁置換術
・ 緑内障手術2流出路再建術(イ眼内法)、6水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術	・ 経皮的僧帽弁クリップ術
・ 緑内障手術 緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・ 緑内障手術 濾過胞再建術(needle法)	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・ 経皮的カテーテル心筋焼灼術 磁気ナビゲーション加算
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) 経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・ ペースメーカー移植術(リードレス) ペースメーカー交換術
・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ ペースメーカー移植術 ペースメーカー交換術
・ 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・ 両心室ペースメーカー移植術 両心室ペースメーカー交換術
・ 乳腺悪性腫瘍手術 乳癌センチネルリンパ節生検加算1	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの) 植込型除細動器交換術(その他のもの) 経静脈電極抜去術
・ 乳腺悪性腫瘍手術 乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 補助人工心臓
・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・ 気管支バルブ留置術	・ 経皮的大動脈遮断術
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)

肺悪性腫瘍手術 壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	ダメージコントロール手術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
同種死体肺移植術	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(ロボット)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(ロボット))
生体部分肺移植術	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ焼灼療法	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
胃瘻造設術(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)	膀胱腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	人工尿道括約筋植込・置換術
胆管悪性腫瘍手術 膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの	陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
体外衝撃波胆石破碎術(一連につき)	精巣内精子採取術
- 腹腔鏡下肝切除術 - 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
生体部分肝移植術	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
体外衝撃波膵石破碎術(一連につき)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	腔腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)腹腔鏡下膵中央切除術	- 腹腔鏡下仙骨腔固定術 - 腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
小腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
結腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの	体外式膜型人工肺管理料
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	輸血管理料Ⅱ
- 腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いる) - 腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いる)	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下小切開副腎摘出術	自己生体組織接着剤作成術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下小切開腎部分切除術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・ 麻酔管理料(Ⅰ)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 周術期薬剤管理加算
・ 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの	・ 放射線治療管理料 放射線治療専任加算
・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 放射線治療管理料 外来放射線治療加算
・ 同種死体腎移植術	・ 体外照射 高エネルギー放射線治療
・ 生体腎移植術	・ 体外照射 1回線量増加加算
・ 腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘 出術	・ 体外照射 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・ 尿管腸瘻閉鎖術 内視鏡によるもの	・ 体外照射 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 体外照射 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 直線加速器による放射線治療 定位放射線治療の場合	・
・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・ 密封小線源治療 画像誘導密封小線源治療加算(密封小線源治療の注8)	・
・ 病理診断料 病理診断管理加算2	・
・ 病理診断料 悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・ 看護職員処遇改善評価料	・
・ 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・
・ 入院ベースアップ評価料70	・
・ 歯科治療時医療管理料	・
・ 精密触覚機能検査	・
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・
・ 手術用顕微鏡加算	・
・ 歯根端切除手術の注3(1歯につき)	・
・ 歯周組織再生誘導手術	・
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・
・ 広範囲顎骨支持型装置埋込手術(1顎一連につき)	・
・ 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・
・ 歯科麻酔管理料	・
・ クラウン・ブリッジ維持管理料(1装置につき)	・
・ 光学印象	・

・ CAD/CAM冠 CAD/CAMインレー	・
・ 歯科矯正診断料	・
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC:4回 症例検討会:69回 計73回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	16
	剖検率(%)	2.2

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
銀の練り込み及びMPCポリマーコーティングによる抗菌胆管ステントの基礎的検討	入澤篤志	内科学(消化器)	200,000	補委	日本学術振興会
DNAM-1/TIGIT/CD155/CD112を標的としたAMLに対する免疫療法の開発	今井陽一	内科学(血液・腫瘍)	1,400,000	補委	日本学術振興会
同種造血幹細胞移植後HHV-6脳炎炎症機構の解明と早期検出法の開発	遠矢嵩	内科学(血液・腫瘍)	1,400,000	補委	日本学術振興会
抗癌剤による体液異常症に対する水チャネルを標的とした新規治療法の開発	頼建光	内科学(腎臓・高血圧)	1,800,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病におけるプロスタグランジンD2合成酵素値と睡眠関連症状との関連	鈴木圭輔	内科学(神経)	700,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性心筋障害に対する糖尿病治療薬の影響に関する基礎的検討	城島輝雄	内科学(内分泌代謝)	400,000	補委	日本学術振興会
劇症型間質性肺炎の新規治療開発に向けた免疫病原性肺マクロファージの基盤的研究	有馬雅史	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委	日本学術振興会
深層学習による膠原病肺の新規画像分類の確立	前澤玲華	内科学(リウマチ・膠原病)	2,100,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性肺疾患における病原性肺マクロファージによる病態修飾機構の探索的研究	新井聡子	内科学(リウマチ・膠原病)	1,200,000	補委	日本学術振興会
劇症型間質性肺炎における気管支上皮細胞の病理学的機能の解明と新規治療の開発研究	田中彩絵	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委	日本学術振興会
共生社会における介護者の仕事と学びを支えるための研究	菅原典夫	精神神経医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
共同意思決定に対する医師-当事者間の認識ギャップと治療に与える影響	大和田環	精神神経医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
双極性障害治療時のバルプロ酸による高アンモニア血症の機序解明	横山沙安也	精神神経医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
本邦における抗うつ薬による性機能障害の評価方法と薬理学的対処法の開発	篠崎将貴	精神神経医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
統合失調症における性機能障害の実態解明と適正プロラクチン値の同定	田崎みなみ	精神神経医学	1,100,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎におけるMAIT細胞の役割を明らかにする	井川健	皮膚科学	600,000	補委	日本学術振興会
siRNAによる血管型エーラス・ダンロス症候群の新規治療開発を目指したin vitro研究	林周次郎	皮膚科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
非典型的な臨床像と診断エラーの関係の分析と応用性の高い対策の立案	原田侑典	総合診療医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
オンラインで身体診察を可能にする「リアルタイム遠隔聴診」システムの開発と臨床応用	廣澤孝信	総合診療医学	900,000	補委	日本学術振興会
「診断の遅れ」を最小限にする臓器専門科への紹介前アルゴリズムの開発	川村廉	総合診療医学	1,500,000	補委	日本学術振興会
座学と臨床の溝を埋めるハイブリッド型医療面接教育プログラムの開発と実践	横瀬允史	総合診療医学	800,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HMGCR-MAPK7 axisを標的とした新たな胸腺癌治療戦略の開発	千田雅之	呼吸器外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
レプチンシグナルを介した肥満による脊柱靱帯骨化進展機構の解明	種市洋	整形外科科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
脊柱後弯症患者における歩行障害の病態解明と、変形矯正手術による歩行機能の変化	稲見聡	整形外科科学	300,000	補委	日本学術振興会
統合ゲノミクスによる脊柱靱帯骨化症の発症機構の解明	高畑雅彦	整形外科科学	3,600,000	補委	日本学術振興会
Gut microbiome-Osteal macrophages axis as a new therapeutic target for prevention of osteoporosis	高畑雅彦	整形外科科学	2,000,000	補委	日本学術振興会
骨髄穿刺濃縮細胞による一期的軟骨再生治療および抗炎症・軟骨保護効果の解明	瓜田淳	整形外科科学	400,000	補委	日本学術振興会
分子シャペロン調節性標的蛋白分解誘導剤を用いた去勢抵抗性前立腺癌の新規治療の開発	木島敏樹	泌尿器科学	900,000	補委	日本学術振興会
分子遺伝学的解析による鼻副鼻腔粘膜上皮細胞からみた好酸球性鼻副鼻腔炎の層別化	中山次久	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症の母児合併症を改善する抗炎症治療の開発	成瀬勝彦	産科婦人科学	900,000	補委	日本学術振興会
口腔発癌における骨髄幹細胞の関与:マウスモデルを用いた検証と診断への応用	川又均	口腔外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
マルチリージョンシーケンスによる口腔癌の発生とクローン進化機構の解明	福本正知	口腔外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
歯科治療により発生するエアロゾル中のSARS-CoV-2の検出と臨床的意義	大谷紗織	口腔外科学	700,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害患者の運動時におけるT2強調画像を用いた前腕の筋活動の解析	美津島隆	リハビリテーション科学	600,000	補委	日本学術振興会
高齢脳卒中急性期患者における筋質の変化と、その変化に影響を与える因子の検討	入澤寛	リハビリテーション科学	200,000	補委	日本学術振興会
集中治療における早期摂食嚥下リハビリテーションの効果	中村智之	リハビリテーション科学	50,000	補委	日本学術振興会
MRIを用いた運動解析～累積比率曲線を用いて～	高森正祥	大学病院・リハビリテーション科	300,000	補委	日本学術振興会
RNAウイルス疾患を特異的に診断する核医学検査法及びその治療薬の開発に関する研究	中神佳宏	大学病院・PETセンター	1,000,000	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞患者の末梢血で増加するMUSE細胞のプロファイル	佐久間理吏	大学病院・再生医療センター	100,000	補委	日本学術振興会
プロゲステロンとエストラジオール添加によるヒト精子受精能獲得の人為的惹起の試み	鈴木達也	大学病院・リプロダクションセンター	1,400,000	補委	日本学術振興会
循環器疾患のサルコペニアとその対策としてのリハビリ法の開発・分子機構の解明	中島敏明	加圧トレーニング®医学講座	3,400,000	補委	日本学術振興会
非閉塞性冠動脈疾患(INOCA)患者におけるPrecision Medicineを目指した RNF213遺伝子多型保有率の検証とINOCA発症polygenic risk score モデルの作成	金谷智明	内科学(心臓・血管)	900,000	補委	AMED
特発性造血障害に関する調査研究	三谷絹子	内科学(血液・腫瘍)	500,000	補委	厚生労働省

研 究 課 題 名	研 究 者 氏 名	所 属 部 門	金 額	補助元又は委託元	
難治・再燃の後天性慢性赤芽球癆 に対する経ロシロリムスの効果と安全性の評価	三谷絹子	内科学(血液・腫瘍)	700,000	補 委	AMED

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明とQOL向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究	鈴木圭輔	内科学(神経)	300,000	補委	厚生労働省
進展型小細胞肺癌に対する新たな治療開発を目指した研究	仁保誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	13,800,000	補委	AMED
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	仁保誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	294,000	補委	AMED
AI技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	古郡規雄	精神神経医学	1,000,000	補委	AMED
精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	古郡規雄	精神神経医学	300,000	補委	AMED
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	古郡規雄	精神神経医学	3,000,000	補委	AMED
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	吉原重美	小児科学	50,000	補委	AMED
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	白石秀明	小児科学	243,000	補委	AMED
小児四肢疼痛発作症の就学・就労支援マニュアルの作成のための調査研究	白石秀明	小児科学	100,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究	白石秀明	小児科学	550,000	補委	厚生労働省
医療安全対策の普及と実装に向けた研究	志水太郎	総合診療医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
医師臨床研修制度における基本的臨床能力評価試験の活用等に関する研究	志水太郎	総合診療医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
医師臨床研修制度における基本的臨床能力評価試験の活用等に関する研究	横瀬允史	総合診療医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
患者由来iPS細胞を用いた胆道異常の病態モデリングと治療法開発	鈴木完	外科学(上部消化管)	1,000,000	補委	AMED
RNAを中心に据えたB型肝炎の病態解明と完全排除法開発	青木琢	外科学(肝・胆・膵)	4,000,000	補委	AMED
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	種市洋	整形外科科学	250,000	補委	厚生労働省
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	高畑雅彦	整形外科科学	250,000	補委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山口重樹	麻酔科学	200,000	補委	厚生労働省
循環器病の救急医療現場における医療者間の連携体制強化のための全国メディカルコントロール協議会作成救急活動プロトコルの実態調査と標準プロトコルの提案	菊地研	救急医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	江島泰生	放射線治療センター	100,000	補委	AMED
脳卒中診療において今後目指すべき回復期診療の検討及び回復期や維持期、生活期における診療	竹川寛宏	大学病院・脳卒中セン	代表者一括計上	補	厚生労働

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
がん・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究	鈴木達也	リプロダクションセンター	200,000	補	厚生労働省
循環器病対策の進捗評価法の確立を目指した研究	竹川英宏	大学病院・脳卒中センター	代表者一括計上	補	厚生労働省
小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究	鈴木達也	リプロダクションセンター	200,000	補	厚生労働省
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)): 希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	鈴木宏	遺伝ゲノム診療部	6,000,000	補	AMED

計 68 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirose S, Takei Y, Tezuka M, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Simultaneous transcatheter aortic valve replacement and thoracic endovascular aortic repair by the transcarotid approach for aortic stenosis with chronic type-A aortic dissection.	J Cardiol Cases. 2025 Feb 18;31(5):129–133. doi: 10.1016/j.jccase.2025.01.009.	Case Report
2	Nakajima T, Haruyama A, Fukuda T, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Increased neprilysin expression is linked to atrial fibrotic remodeling in cardiovascular surgery patients.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2025 Mar 17;57:101647. doi: 10.1016/j.ijicha.2025.101647.	Journal Article
3	Horinaka S, Sakuma M, Yonezawa Y, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Usefulness of Blood Flow Measurement Device Using Bioelectrical Impedance Plethysmography in Lower- Extremity Artery Disease.	Circ Rep. 2025 Jan 9;7(2):113– 121. doi: 10.1253/circrep.CR-24- 0046.	Journal Article
4	Saito I, Minami K, Atagi I, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Omni-polar mapping versus point-by- point mapping approach for catheter ablation of atrioventricular accessory pathway.	J Interv Card Electrophysiol. 2025 Jan 22. doi: 10.1007/s10840-025-01989-x.	Journal Article
5	Lu T, Sakuma M, Sohma R, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Mobilization of endothelial progenitor cells after implantation of CD34 antibody-covered sirolimus- eluting COMBO((R)) stent: assessment with EPC colony- forming assay.	Heart Vessels. 2025 May;40(5):435–445. doi: 10.1007/s00380-024-02483-6. Epub 2024 Nov 19.	Journal Article
6	Toyoda S, Sakuma M, Ishida K, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Accumulation of endogenous Muse cells in the myocardium and its pathophysiological role in patients with fulminant myocarditis.	Clin Transl Sci. 2024 Nov;17(11):e70067. doi: 10.1111/cts.70067.	Journal Article
7	Nakajima T, Haruyama A, Fukuda T, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Left atrial reservoir strain is a marker of atrial fibrotic remodeling in patients undergoing cardiovascular surgery: Analysis of gene expression.	PLoS One. 2024 Jul 8;19(7):e0306323. doi: 10.1371/journal.pone.0306323.	Journal Article
8	Nakajima T, Fukuda T, Shibasaki I, et al	心臓・血管内科/循環 器内科	Pathophysiological roles of the serum acylcarnitine level and acylcarnitine/free carnitine ratio in patients with cardiovascular diseases.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 Mar 14;51:101386. doi: 10.1016/j.ijicha.2024.101386.	Journal Article
9	Masuyama S, Kanazawa M, Tominaga K, et al	消化器内科	Short-Term and Intermediate Efficacy of Tacrolimus for Active Ulcerative Colitis: A Single-Center Retrospective Analysis in Japan.	Cureus. 2024 Nov 12;16(11):e73552. doi: 10.7759/cureus.73552.	Journal Article
10	Nagashima K, Ishikawa M, Inaba Y, et al	消化器内科	A new treatment for endoscopic ultrasound-guided vascular intervention: coiling with sclerotherapy for esophageal varices.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E941–E942. doi: 10.1055/a- 2443-3851. Epub 2024 Nov 8.	Journal Article
11	Nagashima K, Inaba Y, Kashima K, et al	消化器内科	Cyanoacrylate injection for hemorrhagic giant esophageal varices: simultaneous disappearance of the varices with hemostasis.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E933–E934. doi: 10.1055/a- 2436-1412. Epub 2024 Oct 25.	Journal Article
12	Kunogi Y, Irisawa A, Yamamiya A, et al	消化器内科	All-in-one sphincterotome with high rotation performance and freely bendable blade for endoscopic sphincterotomy in patients with surgically altered anatomy (a case series with video).	DEN Open. 2024 Oct 8;5(1):e70019. doi: 10.1002/deo2.70019.	Journal Article
13	Irisawa A, Nagashima K, Yamamiya A, et al	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided vascular interventions.	Dig Endosc. 2025 Jan;37(1):85– 92. doi: 10.1111/den.14925. Epub 2024 Sep 25.	Review
14	Tominaga K, Kanazawa M, Watanabe S, et al	消化器内科	Comparison of early versus late addition of granulocyte and monocyte adsorption for incomplete remission induction in ulcerative colitis.	JGH Open. 2024 Jul 24;8(7):e70012. doi: 10.1002/jgh3.70012.	Journal Article
15	Kojimahara S, Kanazawa M, Tominaga K, et al	消化器内科	Symptomatic duodenal intramural hematoma caused by weight training: a report of two cases.	Clin J Gastroenterol. 2024 Aug;17(4):633–639. doi: 10.1007/s12328-024-01970-7. Epub 2024 Apr 15.	Case Report
16	Horikawa Y, Goda K, Koyanagi R, et al	消化器内科	Superficial esophageal squamous cell carcinoma with melanocytosis that was endoscopically difficult to differentiate from malignant melanoma.	DEN Open. 2024 Mar 25;4(1):e353. doi: 10.1002/deo2.353.	Case Report

17	Nagashima K, Kashima K, Kunogi Y, et al	消化器内科	Treatment of endoscopic ultrasound-guided coil deployment for isolated gastric varices using 0.035-inch hydrocoil: Experience of three cases.	DEN Open. 2023 Jun 15;4(1):e252. doi: 10.1002/deo2.252.	Case Report
18	Nakamura F, Sasaki K, Nannya Y, et al	血液・腫瘍内科	A CML Patient Carrying BCR::ABL1 Splicing Variants Did Not Experience Blast Crisis for 15 Years without Responding to Various TKIs.	Intern Med. 2025 Feb 1;64(3):455-458. doi: 10.2169/internalmedicine.4163-24. Epub 2024 Sep 7.	Case Report
19	Imai Y	血液・腫瘍内科	Novel treatment strategies for hematological malignancies in the immunotherapy era.	Int J Hematol. 2024 Jul;120(1):3-5. doi: 10.1007/s12185-024-03793-1. Epub 2024 Jun 11.	Editorial
20	Tojo A	腎臓・高血圧内科	Target organ damage in primary aldosteronism and captopril challenge test.	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):819-821. doi: 10.1038/s41440-024-02005-x. Epub 2024 Nov 14.	Comment
21	Abe M, Ogawa T, Magome N, et al	腎臓・高血圧内科	Element analysis applied to investigate acute kidney injury induced by red yeast rice supplement.	Med Mol Morphol. 2025 Mar;58(1):53-61. doi: 10.1007/s00795-024-00411-1. Epub 2024 Nov 13.	Case Report
22	Suzuki K, Suzuki S, Fujita H, et al	脳神経内科	The effect of calcitonin gene-related peptide monoclonal antibodies on restless legs syndrome in patients with migraine.	J Headache Pain. 2025 Feb 19;26(1):36. doi: 10.1186/s10194-025-01976-7.	Journal Article
23	Suzuki K, Suzuki S, Haruyama Y, et al	脳神経内科	Clinical impact of restless legs syndrome in patients with migraine: a 12-year, single-center, longitudinal study.	Sleep Biol Rhythms. 2024 Aug 5;23(1):21-27. doi: 10.1007/s41105-024-00547-8.	Journal Article
24	Suzuki K, Fujita H, Kobayashi S	脳神経内科	Managing sleep issues in Parkinson's disease: an up-to-date review.	Expert Rev Neurother. 2025 Feb;25(2):211-226. doi: 10.1080/14737175.2025.2450789. Epub 2025 Jan 10.	Review
25	Sakuramoto H, Fujita H, Ogaki K, et al	脳神経内科	A patient with Parkinson's disease whose sleep status improved after the introduction of continuous subcutaneous foslevodopa/foscarbidopa infusion.	Clin Park Relat Disord. 2024 Dec 2;11:100292. doi: 10.1016/j.prdoa.2024.100292.	Case Report
26	Tatsumoto M, Hirata K, Nakayama T, et al	脳神経内科(頭痛センター)	Seasonal Variations in Triptan Prescription in Japan: A Nationwide Time-Series Analysis.	Brain Behav. 2024 Dec;14(12):e70184. doi: 10.1002/brb3.70184.	Journal Article
27	Sakuramoto H, Fujita H, Ogaki K, et al	脳神経内科	Vascular parkinsonism showing dopamine transporter scan findings mimicking those of Parkinson's disease.	eNeurologicalSci. 2024 Sep 18;37:100528. doi: 10.1016/j.ensci.2024.100528.	Journal Article
28	Kokubun N, Tsuchiya T, Hamaguchi M, et al	脳神経内科	IgG subclass shifts occurring at acute exacerbations in autoimmune nodopathies.	J Neurol. 2024 Sep;271(9):6301-6312. doi: 10.1007/s00415-024-12597-6. Epub 2024 Aug 2.	Case Report
29	Funakoshi K, Kokubun N, Suzuki K, et al	脳神経内科	Proteinuria is a key to suspect autoimmune nodopathies.	Eur J Neurol. 2024 Oct;31(10):e16406. doi: 10.1111/ene.16406. Epub 2024 Jul 9.	Journal Article
30	Kokubun N, Funakoshi K, Yuki N	脳神経内科	Do corticosteroids aggravate pure motor chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy?	J Peripher Nerv Syst. 2024 Jun;29(2):286-287. doi: 10.1111/jns.12639. Epub 2024 Jun 10.	Letter
31	Suzuki K, Suzuki S, Fujita H, et al	脳神経内科	Can calcitonin gene-related peptide monoclonal antibodies ameliorate writer's cramp and migraine?	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Jun;44(2):482-484. doi: 10.1002/npr2.12444. Epub 2024 Apr 11.	Case Report
32	Tsukui D, Takekawa H, Saito K, et al	脳神経内科(脳卒中センター)	Usefulness of "AcT ratio" in diagnosis of internal carotid artery stenosis: a multicenter, retrospective, observational study.	J Med Ultrason (2001). 2024 Apr;51(2):347-353. doi: 10.1007/s10396-024-01409-z. Epub 2024 Apr 6.	Journal Article
33	Fujita H, Ogaki K, Shiina T, et al	脳神経内科	Impact of autonomic symptoms on the clinical course of Parkinson's disease.	Neurol Sci. 2024 Aug;45(8):3799-3807. doi: 10.1007/s10072-024-07422-x. Epub 2024 Feb 24.	Journal Article
34	Saito M, Usui I, Sugawara N, et al	内分泌代謝内科	Patients with diabetes and obesity exhibit characteristics in eating and coping behaviors and personality traits.	Diabetol Int. 2024 Apr 16;15(3):528-534. doi: 10.1007/s13340-024-00721-w.	Journal Article
35	Kunii T, Usui I, Jojima T, et al	内分泌代謝内科	Impact of inpatient management of hyperglycemia on peripheral T cell markers in patients with type 2 diabetes.	Diabetol Int. 2024 Feb 26;15(3):414-420. doi: 10.1007/s13340-024-00697-7.	Journal Article
36	Kato K, Jojima T, Kogai T, et al	内分泌代謝内科	Diabetes with GLP-1R polymorphism (rs3765467) accompanied by myotonic dystrophy: A case of myotonic dystrophy with p.R131Q polymorphism at the glucagon-like peptide-1 receptor (rs3765467) resulting in marked effects of its agonist dulaglutide	Am J Med Sci. 2025 Jan;369(1):126-130. doi: 10.1016/j.amjms.2024.06.030. Epub 2024 Jul 8.	Case Report

37	Saito M, Iijima T, Kurai H, et al	内分泌代謝内科	Thyroid storm after coronavirus disease 2019 mRNA vaccination in a patient with a history of Graves' disease after coronavirus disease 2019 infection.	BMJ Case Rep. 2024 Jun 4;17(6):e259796. doi: 10.1136/bcr-2024-259796.	Case Report
38	Jojima T, Sakurai S, Kishi H, et al	内分泌代謝内科	Empagliflozin increases plasma levels of citrulline, histidine, and alpha-aminobutyric acid in patients with type 2 diabetes: effects of a sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor on the plasma amino acid profile.	Expert Opin Pharmacother. 2024 May;25(7):937-944. doi: 10.1080/14656566.2024.2362265 . Epub 2024 Jun 4.	Journal Article
39	Aso Y, Iijima T, Jojima T, et al	内分泌代謝内科	High serum levels of CCL11/Eotaxin-1 are associated with diabetic sensorimotor polyneuropathy and peripheral nerve function but not with cardiac autonomic neuropathy in people with type 2 diabetes.	Postgrad Med. 2024 Apr;136(3):318-324. doi: 10.1080/00325481.2024.2347196 . Epub 2024 Apr 29.	Journal Article
40	Kushima Y, Shimizu Y, Arai R, et al	呼吸器内科	Real-life effectiveness of once-daily single-inhaler triple therapy (FF-UMEC-VI) after switching from dual therapy (ICS-LABA) in patients with symptomatic asthma: trelegy ellipta for real asthma control study.	Front Allergy. 2025 Mar 17;6:1537501. doi: 10.3389/falgy.2025.1537501.	Journal Article
41	Tsukada N, Nakamura Y, Hara S, et al	呼吸器内科	A case of acute eosinophilic pneumonia induced by the inhalation of acetvylene.	Respir Med Case Rep. 2024 Oct 23;52:102135. doi: 10.1016/j.rmcr.2024.102135.	Case Report
42	Nakamura Y, Takemasa A, Ohoka Y, et al	呼吸器内科	A case of pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma diagnosed by detecting t(11;18)(q21;q21) in bronchial lavage fluid.	Respir Med Case Rep. 2024 Oct 17;52:102133. doi: 10.1016/j.rmcr.2024.102133.	Case Report
43	Niho S, Goto Y, Toyozawa R, et al	呼吸器内科	Phase II study of brigatinib in patients with ROS1 fusion-positive non-small-cell lung cancer: the Barossa study.	ESMO Open. 2024 Aug;9(8):103642. doi: 10.1016/j.esmoop.2024.103642. Epub 2024 Jul 16.	Journal Article
44	Shimizu Y, Kushima Y, Tanaka A, et al	呼吸器内科	Pulmonary granulomas confirmed in Blau syndrome using TBLC specimens: Case report.	Front Med (Lausanne). 2024 Jun 12;11:1380236. doi: 10.3389/fmed.2024.1380236.	Case Report
45	Inaba M, Shimizu Y, Nakamura Y, et al	呼吸器内科	Tezepelumab improved chronic eosinophilic pneumonia in severe asthma patients with liver cirrhosis.	Front Med (Lausanne). 2024 Jun 11;11:1381261. doi: 10.3389/fmed.2024.1381261.	Case Report
46	Nakamura Y, Niho S, Shimizu Y	呼吸器内科	Cell-Based Therapy for Fibrosing Interstitial Lung Diseases, Current Status, and Potential Applications of iPSC-Derived Cells.	Cells. 2024 May 22;13(11):893. doi: 10.3390/cells13110893.	Journal Article
47	Niho S, Sato J, Satouchi M, et al	呼吸器内科	Long-term follow-up and exploratory analysis of lenvatinib in patients with metastatic or recurrent thymic carcinoma: Results from the multicenter, phase 2 REMORA trial.	Lung Cancer. 2024 May;191:107557. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.107557. Epub 2024 Mar 30.	Journal Article
48	Kurasawa K, Arai S, Taniguchi-Namiki Y, et al	リウマチ・膠原病内科	Pulmonary and serum cytokine profiles of patients with anti-ARS and anti-MDA5 antibodies.	J Autoimmun. 2025 Feb;151:103374. doi: 10.1016/j.jaut.2025.103374. Epub 2025 Jan 28.	Journal Article
49	Ikeda K, Kaneko Y, Tsujita Y, et al	リウマチ・膠原病内科	Healthcare resource utilisation and economic burden of patients with adequate and inadequate responses to biological and targeted synthetic disease-modifying antirheumatic drugs for rheumatoid arthritis in Japan.	Mod Rheumatol. 2024 Aug 20;34(5):910-917. doi: 10.1093/mr/road106.	Journal Article
50	Kawamata Y, Ohi K, Ito S, et al	精神神経科	Relationships between clinician adherence to guideline-recommended treatment and memory function in patients with schizophrenia.	J Psychiatr Res. 2025 May;185:169-176. doi: 10.1016/j.jpsychires.2025.03.054. Epub 2025 Mar 27.	Journal Article
51	Okayasu H, Sugawara N, Fujii K, et al	精神神経科	The Association Between Antidepressant Treatment and Heart Rate Deceleration Capacity in Patients With Mood disorders-A Potential New Predictor of Sudden Cardiac Death.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2025 Mar 18;21:597-607. doi: 10.2147/NDT.S507851.	Journal Article
52	Tokumitsu K, Sugawara N, Adachi N, et al	精神神経科	Real-world clinical determinants of alcohol dependence in outpatients with bipolar disorder: a multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric outpatient clinics with 2,392 participants.	Front Psychiatry. 2024 Nov 7;15:1434810. doi: 10.3389/fpsyt.2024.1434810.	Journal Article
53	Ishihara Y, Sugawara N, Kawamata Y, et al	精神神経科	Initial psychotropic prescriptions and symptom associations in first-visit patients with major depressive disorder: A single-center cross-sectional study.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar;45(1):e12507. doi: 10.1002/npr2.12507. Epub 2024 Nov 20.	Journal Article

54	Sugawara N, Tabuchi T, Tokumitsu K, et al	精神神経科	Predictors of somatic symptoms during the COVID-19 pandemic: a national longitudinal survey in Japan.	BMJ Open. 2024 May 7;14(5):e082439. doi: 10.1136/bmjopen-2023-082439.	Journal Article
55	Kikuchi K, Hasegawa C, Sasaki T, et al	精神神経科	Continuous alcohol withdrawal delirium and physical illness-associated delirium in a man brought to the emergency department after a disaster: A case report.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Sep;44(3):486-489. doi: 10.1002/npr.12446. Epub 2024 Apr 25.	Case Report
56	Sasaki T, Shindo Y, Kikuchi K, et al	精神神経科	Vortioxetine-induced syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone: A case report.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Jun;44(2):479-481. doi: 10.1002/npr.12438. Epub 2024 Apr 8.	Case Report
57	Sato A, Sugawara N, Kawamata Y, et al	精神神経科	Changes in suicidal ideation during treatment among patients with major depressive disorder: A 6-month naturalistic follow-up study.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Jun;44(2):371-380. doi: 10.1002/npr.12428. Epub 2024 Mar 5.	Journal Article
58	Sakurai R, Miyamoto M, Yoshihara S	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Evaluation and Treatment Adherence of a Child With Atopic Dermatitis Complicated by Parental Steroid Phobia: A Case Report.	Cureus. 2025 Mar 25;17(3):e81132. doi: 10.7759/cureus.81132.	Case Report
59	Fujita Y, Kumagai H, Yamaguchi T, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Partial Enteral Nutrition for Treating Anal Fistulas in a Boy With Crohn's Disease Without Luminal Involvement: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 4;17(1):e76898. doi: 10.7759/cureus.76898.	Case Report
60	Imataka G, Shiraishi H	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Youth Suicide in Japan: Exploring the Role of Subcultures, Internet Addiction, and Societal Pressures.	Diseases. 2024 Dec 27;13(1):2. doi: 10.3390/diseases13010002.	Journal Article
61	Imataka G, Shiraishi H, Yoshihara S	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Pediatric Acute Disseminated Encephalomyelitis Triggered by Concurrent Administration of Seasonal and H1N1 Influenza Vaccines: A Case Report and Review.	NeuroSci. 2024 Dec 30;6(1):1. doi: 10.3390/neurosci6010001.	Case Report
62	Sato M, Fujita Y, Naganuma J, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Kawasaki disease preceded by acute appendicitis treated with intravenous immunoglobulin without surgery.	Rheumatol Adv Pract. 2025 Jan 6;9(1):rkaf003. doi: 10.1093/rap/rkaf003.	Case Report
63	Takagi Y, Kano Y, Tarukawa T, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Peritoneal dialysis-associated peritonitis caused by Gordonia sputi in a pediatric case.	Pediatr Int. 2025 Jan-Dec;67(1):e15876. doi: 10.1111/ped.15876.	Journal Article
64	Akutsu A, Fujita Y, Hitomi H, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Protein-Losing Enteropathy Following Adrenocorticotrophic Hormone Therapy in an Infant with West Syndrome.	Tohoku J Exp Med. 2025 Jan 16. doi: 10.1620/tjem.2025.J002.	Journal Article
65	Ando Y, Sato S, Ebisawa M, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Peach component-specific IgE measurement helps to differentiate between local and systemic reactions in peach-allergic Japanese patients.	Allergol Int. 2025 Apr;74(2):233-239. doi: 10.1016/j.alit.2024.09.004. Epub 2024 Dec 30.	Journal Article
66	Imataka G, Mori S, Yui K, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	The Therapeutic Potential of Oral Everolimus for Facial Angiofibromas in Pediatric Tuberous Sclerosis Complex: A Case-Based Analysis of Efficacy.	Diseases. 2024 Dec 20;12(12):334. doi: 10.3390/diseases12120334.	Case Report
67	Takagi Y, Fujita Y, Kano Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Switch to amoxicillin-clavulanate oral therapy in urinary tract infection caused by extended-spectrum beta-lactamase-producing Escherichia coli: Assessment by chronic phase technetium-99m dimercaptosuccinic acid renal scintigraphy images.	J Infect Chemother. 2025 Mar;31(3):102599. doi: 10.1016/j.jiac.2024.102599. Epub 2024 Dec 24.	Case Report
68	Fujita Y, Matsushita T, Sato M, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Transient negativity for the anti-TIF1gamma antibody before treatment in juvenile dermatomyositis.	Rheumatol Adv Pract. 2024 Dec 2;8(4):rkaf146. doi: 10.1093/rap/rkaf146.	Case Report
69	Hitomi H, Fujita Y, Takagi Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Usefulness of Thymus and Activation-Regulated Chemokine for the Diagnosis of Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome with Sepsis-Like Symptoms in a Pediatric Patient with Trisomy 13.	Indian J Pediatr. 2025 Jan;92(1):106. doi: 10.1007/s12098-024-05329-1. Epub 2024 Nov 19.	Letter
70	Fujita Y, Takise Y, Masuyama Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Hairy Polyp Presenting With Respiratory Distress in an Infant With Cleft Palate.	Cureus. 2024 Oct 14;16(10):e71489. doi: 10.7759/cureus.71489.	Case Report
71	Arisaka O, Koyama S, Imataka G, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	The Unexpected Detection of Esophageal Varices Caused by Liver Cirrhosis in a 47-Year-Old Man Treated with a Growth Hormone in Childhood.	Diseases. 2024 Oct 12;12(10):251. doi: 10.3390/diseases12100251.	Case Report

72	Imataka G, Izumi S, Miyamoto Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Gaming Disorders: Navigating the Fine Line between Entertainment and Addiction—Gaming History, Health Risks, Social Consequences, and Pathways to Prevention.	J Clin Med. 2024 Aug 29;13(17):5122. doi: 10.3390/jcm13175122.	Journal Article
73	Sato M, Fujita Y, Imataka G, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Primary Ciliary Dyskinesia with Identical Genotype but Distinct Phenotypes in Two Siblings.	Tohoku J Exp Med. 2024 Sep 18;263(3):211–215. doi: 10.1620/tjem.2024.J035. Epub 2024 May 30.	Case Report
74	Abid H, Ando Y, Miyamoto M, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Using a survey, analyzing the current situation of allergic March in elementary and junior high school students of oyama and tochigi cities, Japan.	Pediatr Neonatol. 2024 Sep;65(5):500–505. doi: 10.1016/j.pedneo.2023.10.008. Epub 2024 Mar 15.	Journal Article
75	Shirakawa Y, Fujita Y, Ando Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	The Effectiveness of High-dose Intravenous Immunoglobulin for Clostridioides difficile Infection Complicated by Kawasaki Disease: A Pediatric Case Report.	Pediatr Infect Dis J. 2024 Jul 1;43(7):e254–e255. doi: 10.1097/INF.0000000000004307. Epub 2024 Feb 29.	Case Report
76	Takagi Y, Kano Y, Oda T, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Pediatric IgA-Dominant Infection-Related Glomerulonephritis.	Tohoku J Exp Med. 2024 Jun 28;263(2):97–104. doi: 10.1620/tjem.2024.J018. Epub 2024 Feb 15.	Case Report
77	Fujita Y, Yoshihara S	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Serum Level of Interleukin-33 in Infantile Atopic Dermatitis.	Indian J Pediatr. 2024 May;91(5):515. doi: 10.1007/s12098-023-04906-0. Epub 2023 Oct 28.	Letter
78	Fujita Y, Suzuki S, Sato M, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Anti-TIF-1gamma Positive Juvenile Dermatomyositis Diagnosed with Atopic Dermatitis.	Indian J Pediatr. 2024 Jul;91(7):739–740. doi: 10.1007/s12098-023-04822-3. Epub 2023 Aug 31.	Case Report
79	Fujita Y, Tominaga K, Shirakawa Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	Pediatric Crohn's Disease Presenting with Gastrocnemius Myositis.	Indian J Pediatr. 2024 Apr;91(4):408. doi: 10.1007/s12098-023-04715-5. Epub 2023 Jun 15.	Journal Article
80	Naganuma J, Koyama S, Watabe Y, et al	とちぎ子ども医療センター(小児科)	A Boy with Reset Osmostat Who Developed Chronic Hyponatremia due to Hypothalamic Injury Caused By a Giant Arachnoid Cyst.	J Clin Res Pediatr Endocrinol. 2024 Dec 4;16(4):489–494. doi: 10.4274/jcrpe.galenos.2023.2022-7-16. Epub 2023 Feb 16.	Case Report
81	Shirakawa K, Takeno M, Kuma H, et al	麻酔部	Comparative Evaluation of Cyclooxygenase Inhibition Profiles Across Various NSAID Forms and Doses: Implications for Efficacy and Adverse Effects.	Pain Ther. 2025 Feb;14(1):329–338. doi: 10.1007/s40122-024-00687-2. Epub 2024 Dec 17.	Journal Article
82	Koyama Y, Hamaguchi S	麻酔部	Challenging treatment of severe hypotension following tracheal intubation in a patient with primary hyperparathyroidism: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 Aug 30;103(35):e39510. doi: 10.1097/MD.00000000000039510.	Case Report
83	Hayashi K, Kikuchi J, Hishinuma H, et al	救急・集中治療科	Impact of the Coronavirus Pandemic on Patients Requiring Tracheal Intubation by Helicopter Emergency Medical Services: A Retrospective, Single-Center, Observational Study.	J Clin Med. 2024 Jun 25;13(13):3694. doi: 10.3390/jcm13133694.	Journal Article
84	Nomura A, Otani N, Kokubun A, et al	救急・集中治療科	Successful Transvenous Implantation of a Permanent Pacemaker in a Patient with Situs Inversus with Dextrocardia Supported by Preceding Three-dimensional Computed Tomography.	Intern Med. 2024 Jun 15;63(12):1739–1743. doi: 10.2169/internalmedicine.2558-23. Epub 2023 Nov 13.	Case Report
85	Sakamoto T, Hirosawa T, Shimizu T	総合診療科	Recurrent Anemia Due To Mucosal Prolapse Syndrome.	Eur J Case Rep Intern Med. 2025 Mar 21;12(4):005314. doi: 10.12890/2025_005314.	Journal Article
86	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Lupus Vulgaris.	Am J Med. 2025 Apr;138(4):e57. doi: 10.1016/j.amjmed.2024.11.028. Epub 2024 Nov 30.	Case Report
87	Sakamoto T, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Facilitating Trust Calibration in Artificial Intelligence-Driven Diagnostic Decision Support Systems for Determining Physicians' Diagnostic Accuracy: Quasi-Experimental Study.	JMIR Form Res. 2024 Nov 27;8:e58666. doi: 10.2196/58666.	Journal Article
88	Hirosawa T, Suzuki T, Shiraishi T, et al	総合診療科	Adapting Artificial Intelligence Concepts to Enhance Clinical Decision-Making: A Hybrid Intelligence Framework.	Int J Gen Med. 2024 Nov 19;17:5417–5422. doi: 10.2147/IJGM.S497753.	Journal Article
89	Hirosawa T, Harada Y, Tokumasu K, et al	総合診療科	Comparative Analysis of Diagnostic Performance: Differential Diagnosis Lists by LLaMA3 Versus LLaMA2 for Case Reports.	JMIR Form Res. 2024 Nov 19;8:e64844. doi: 10.2196/64844.	Journal Article
90	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Syphilitic Paronychia.	Am J Med. 2025 Mar;138(3):e31–e32. doi: 10.1016/j.amjmed.2024.10.018. Epub 2024 Nov 4.	Case Report
91	Hirosawa T, Shimizu T	総合診療科	Enhancing English Presentation Skills with Generative Artificial Intelligence: A Guide for Non-native Researchers.	Med Sci Educ. 2024 May 28;34(5):1179–1184. doi: 10.1007/s40670-024-02078-w.	Letter

92	Hirosawa T, Harada Y, Tokumasu K, et al	総合診療科	Comparative Study to Evaluate the Accuracy of Differential Diagnosis Lists Generated by Gemini Advanced, Gemini, and Bard for a Case Report Series Analysis: <u>Cross-Sectional Study.</u>	JMIR Med Inform. 2024 Oct 2;12:e63010. doi: 10.2196/63010.	Journal Article
93	Otaka Y, Harada Y, Olson A, et al	総合診療科	Lessons in clinical reasoning – pitfalls, myths, and pearls: a case of persistent dysphagia and patient partnership.	Diagnosis (Berl). 2024 Sep 3;11(4):450–454. doi: 10.1515/dx-2024-0061.	Case Report
94	Hirosawa T, Harada Y, Mizuta K, et al	総合診療科	Diagnostic performance of generative artificial intelligences for a series of complex case reports.	Digit Health. 2024 Jul 21;10:20552076241265215. doi: 10.1177/20552076241265215.	Journal Article
95	Yokose M, Hirosawa T, Tsunashima K, et al	総合診療科	A Typical Case of Atypical Disease: “Three Noes” Infective Endocarditis.	Cureus. 2024 Jul 25;16(7):e65325. doi: 10.7759/cureus.65325.	Case Report
96	Hirosawa T, Shimizu T	総合診療科	The potential, limitations, and future of diagnostics enhanced by generative artificial intelligence.	Diagnosis (Berl). 2024 Jul 11;11(4):446–449. doi: 10.1515/dx-2024-0095.	Review
97	Otaka Y, Harada Y, Katsukura S, et al	総合診療科	Diagnostic errors and characteristics of patients seen at a general internal medicine outpatient clinic with a referral for diagnosis.	Diagnosis (Berl). 2024 Jul 5;11(4):400–407. doi: 10.1515/dx-2024-0041.	Journal Article
98	Hirosawa T, Harada Y, Mizuta K, et al	総合診療科	Evaluating ChatGPT-4’s Accuracy in Identifying Final Diagnoses Within Differential Diagnoses Compared With Those of Physicians: Experimental Study for Diagnostic Cases.	JMIR Form Res. 2024 Jun 26;8:e59267. doi: 10.2196/59267.	Journal Article
99	Harada Y, Suzuki T, Harada T, et al	総合診療科	Performance evaluation of ChatGPT in detecting diagnostic errors and their contributing factors: an analysis of 545 case reports of diagnostic errors.	BMJ Open Qual. 2024 Jun 3;13(2):e002654. doi: 10.1136/bmjopen-2023-002654.	Journal Article
100	Harada Y, Sakamoto T, Sugimoto S, et al	総合診療科	Longitudinal Changes in Diagnostic Accuracy of a Differential Diagnosis List Developed by an AI-Based Symptom Checker: Retrospective Observational Study.	JMIR Form Res. 2024 May 17;8:e53985. doi: 10.2196/53985.	Journal Article
101	Hirosawa T, Harada Y, Tokumasu K, et al	総合診療科	Evaluating ChatGPT-4’s Diagnostic Accuracy: Impact of Visual Data Integration.	JMIR Med Inform. 2024 Apr 9;12:e55627. doi: 10.2196/55627.	Journal Article
102	Mizuta K, Hirosawa T, Harada Y, et al	総合診療科	Can ChatGPT-4 evaluate whether a differential diagnosis list contains the correct diagnosis as accurately as a physician?	Diagnosis (Berl). 2024 Mar 12;11(3):321–324. doi: 10.1515/dx-2024-0027.	Journal Article
103	Takimiya R, Suzuki T, Shimizu T	総合診療科	Supraorbital Venous Distention in SVC Syndrome.	J Gen Intern Med. 2024 May;39(6):1068. doi: 10.1007/s11606-023-08352-8. Epub 2024 Feb 12.	Case Report
104	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T	総合診療科	Kommerell’s Diverticulum.	J Gen Intern Med. 2024 May;39(7):1264–1265. doi: 10.1007/s11606-024-08672-3. Epub 2024 Feb 12.	Case Report
105	Harada Y, Otaka Y, Katsukura S, et al	総合診療科	Effect of contextual factors on the prevalence of diagnostic errors among patients managed by physicians of the same specialty: a single-centre retrospective observational study.	BMJ Qual Saf. 2024 May 17;33(6):386–394. doi: 10.1136/bmjqs-2022-015436.	Journal Article
106	Watanabe S, Suzuki K, Ogino K, et al	上部消化管外科	A pediatric case of Burkitt’s lymphoma with bile duct obstruction requiring surgical biliary reconstruction.	Surg Case Rep. 2024 May 29;10(1):133. doi: 10.1186/s40792-024-01935-5.	Journal Article
107	Niki M, Mori S, Miyashita S, et al	肝・胆・膵外科	Clinical relevance of the red blood cell distribution width measured preoperatively as a prognostic marker in patients with distal cholangiocarcinoma undergoing pancreaticoduodenectomy.	Surg Today. 2025 Mar 29. doi: 10.1007/s00595-025-03005-1.	Journal Article
108	Miyashita S, Shimizu T, Niki M, et al	肝・胆・膵外科	Clinical Impact of Cellular Senescence and RNA Dysregulation in HCC Is Associated With MASLD and HCV-SVR.	Anticancer Res. 2025 Feb;45(2):651–659. doi: 10.21873/anticancer.17452.	Journal Article
109	Matsumoto T, Shiraki T, Niki M, et al	肝・胆・膵外科	Proposal of an integrated staging system using albumin-bilirubin grade and serum alpha-fetoprotein values for predicting postoperative prognosis of recurrent hepatocellular carcinoma.	Eur J Surg Oncol. 2024 Jun;50(6):108356. doi: 10.1016/j.ejso.2024.108356. Epub 2024 Apr 20.	Journal Article

110	Matsumoto T, Shiraki T, Tanaka G, et al	肝・胆・膵外科	Comparative analysis of perioperative and long-term outcomes of patients with hepatocellular carcinoma: Nonalcoholic fatty liver disease versus viral hepatitis.	World J Surg. 2024 May;48(5):1219–1230. doi: 10.1002/wjs.12120. Epub 2024 Mar 11.	Journal Article
111	Matsumoto T, Tanaka G, Mori S, et al	肝・胆・膵外科	A resected case of pancreatic head cancer developing 40 years after lateral pancreaticojejunostomy for chronic pancreatitis.	Clin J Gastroenterol. 2024 Jun;17(3):537–542. doi: 10.1007/s12328–024–01924–z. Epub 2024 Feb 24.	Case Report
112	Sato S, Aoki T, Matsumoto T, et al	肝・胆・膵外科	Pathological complete response of hepatocellular carcinoma confirmed by conversion hepatectomy following atezolizumab plus bevacizumab therapy: a case report and literature review.	Clin J Gastroenterol. 2024 Apr;17(2):292–299. doi: 10.1007/s12328–023–01895–7. Epub 2023 Dec 10.	Case Report
113	Ishizuka M, Shibuya N, Hachiya H, et al	下部消化管外科	Robotic surgery is associated with a decreased risk of circumferential resection margin positivity compared with conventional laparoscopic surgery in patients with rectal cancer undergoing mesorectal excision: A systematic review and meta-analysis.	Eur J Surg Oncol. 2024 Oct;50(10):108538. doi: 10.1016/j.ejso.2024.108538. Epub 2024 Jul 14.	Journal Article
114	Ishizuka M, Shibuya N, Hachiya H, et al	下部消化管外科	Clinical influence of prophylactic lateral lymph node dissection on oncologic outcomes of patients with mid-low rectal cancer undergoing mesorectal excision: a meta-analysis.	J Gastrointest Surg. 2024 Apr;28(4):548–558. doi: 10.1016/j.gassur.2024.01.014. Epub 2024 Jan 23.	Journal Article
115	Shibasaki I, Saito S, Kanazawa Y, et al	心臓・血管外科	Preoperative Impella therapy in patients with ventricular septal rupture and cardiogenic shock: haemodynamic and organ function outcomes.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Aug 1;39(2):ivae137. doi: 10.1093/icvts/ivae137.	Journal Article
116	Kanazawa Y, Saito S, Okubo S, et al	心臓・血管外科	Safety and Effectiveness of Acceleration Training as Cardiac Rehabilitation Immediately After Open Heart Surgery – A Pilot Study.	Circ J. 2024 Aug 23;88(9):1432–1439. doi: 10.1253/circj.CJ–24–0352. Epub 2024 Jul 13.	Journal Article
117	Hoshino J, Saito S, Shibasaki I, et al	心臓・血管外科	Angiotensin Receptor–Neprilysin Inhibitor Suppresses Renin–Angiotensin–Aldosterone System Activation After Cardiac Surgery Using Cardiopulmonary Bypass.	Circ J. 2024 Aug 23;88(9):1406–1415. doi: 10.1253/circj.CJ–23–0879. Epub 2024 Apr 24.	Journal Article
118	Takei Y, Miyazaki S, Suzuki K, et al	心臓・血管外科	Hemodynamic predictors of negative false lumen remodeling after frozen elephant trunk for acute aortic dissection.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jun;72(6):376–386. doi: 10.1007/s11748–023–01984–x. Epub 2023 Nov 10.	Journal Article
119	Saito S, Okubo S, Matsuoka T, et al	心臓・血管外科	Impella – Current issues and future expectations for the percutaneous, microaxial flow left ventricular assist device.	J Cardiol. 2024 Apr;83(4):228–235. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.10.008. Epub 2023 Nov 4.	Review
120	Takei Y, Saito S, Shibasaki I, et al	心臓・血管外科	Simulation to determine the approach of transcatheter aortic valve implantation in patients undergoing hemodialysis.	Surg Today. 2024 May;54(5):428–435. doi: 10.1007/s00595–023–02743–4. Epub 2023 Sep 5.	Journal Article
121	Nakajima T	呼吸器外科	An update on the role of endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration in lung cancer management.	Expert Rev Respir Med. 2025 May;19(5):423–434. doi: 10.1080/17476348.2025.2486349. Epub 2025 Mar 30.	Review
122	Hongo T, Shibao S, Morinaga Y, et al	脳神経外科	Fully endoscopic combined endonasal and supraorbital keyhole approach for tuberculum sellae meningiomas with marked lateral extension: How I do it.	Acta Neurochir (Wien). 2025 Feb 14;167(1):48. doi: 10.1007/s00701–025–06458–y.	Case Report
123	Saito K, Ikeda G, Akutsu Y, et al	脳神経外科	Atypical venous drainage system and distinct vascular characteristics in pediatric intracerebral hemorrhage caused by multiple micro arteriovenous malformations.	Childs Nerv Syst. 2024 Dec;40(12):4369–4373. doi: 10.1007/s00381–024–06636–w. Epub 2024 Oct 4.	Case Report
124	Higuchi F, Uzuka T, Matsuda H, et al	脳神経外科	Rise of oligodendroglioma hypermutator phenotype from a subclone harboring TP53 mutation after TMZ treatment.	Brain Tumor Pathol. 2024 Apr;41(2):80–84. doi: 10.1007/s10014–024–00477–w. Epub 2024 Jan 31.	Case Report
125	Ueda H, Inami S, Moridaira H, et al	整形外科	The usefulness and potential of high-fidelity three-dimensional models in spine surgery training: cross-sectional empirical study.	BMC Med Educ. 2025 Mar 15;25(1):387. doi: 10.1186/s12909–025–06936–y.	Journal Article
126	Takahata M, Koike Y, Endo T, et al	整形外科	Adipokine dysregulation as an underlying pathology for diffuse ectopic ossification of spinal posterior longitudinal ligament in patients with obesity.	Spine J. 2025 Jan;25(1):80–90. doi: 10.1016/j.spinee.2024.09.023. Epub 2024 Sep 26.	Journal Article
127	Tomizawa K, Inami S, Moridaira H, et al	整形外科	Decrease in pelvic incidence after adult spinal deformity surgery is a predictive factor for progression of hip joint osteoarthritis.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jun 28;25(1):504. doi: 10.1186/s12891–024–07625–5.	Journal Article

128	Takahata M, Masuda Y, Endo T, et al	整形外科	A patient and public involvement study to explore patient perspectives on the efficacy of treatments for pain and numbness derived from ossification of posterior longitudinal ligament of the spine	J Orthop Sci. 2025 Mar;30(2):278–286. doi: 10.1016/j.jos.2024.05.004. Epub 2024 May 28.	Journal Article
129	Ueda H, Iimura T, Inami S, et al	整形外科	Histology and chronological magnetic resonance images of congenital spinal deformity: An experimental study in mice model.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Apr 26;25(1):334. doi: 10.1186/s12891-024-07460-8.	Journal Article
130	Kijima T, Takada-Owada A, Shimoda H, et al	泌尿器科	Predictive role of ABC transporters in the efficacy of enfortumab vedotin for urothelial carcinoma.	BJUI Compass. 2025 Jan 11;6(1):e488. doi: 10.1002/bco2.488.	Journal Article
131	Nagata M, Matsushima H, Chiba N, et al	眼科	Impact of lens capsule status on pupillary capture following intrascleral intraocular lens fixation: a retrospective study.	BMC Ophthalmol. 2025 Mar 19;25(1):146. doi: 10.1186/s12886-025-03973-5.	Journal Article
132	Koshiishi Y, Nagata M, Matsushima H, et al	眼科	Unilateral lifebuoy cataract: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 Aug 16;103(33):e39359. doi: 10.1097/MD.00000000000039359.	Case Report
133	Nagata M, Matsushima H, Senoo T	眼科	Effect of surface-modified intraocular lenses on long-term postoperative inhibition of posterior capsule opacification.	Heliyon. 2024 Jun 14;10(12):e33006. doi: 10.1016/j.heliyon.2024.e33006.	Journal Article
134	Ito S, Nagata M, Takino Y, et al	眼科	Stability of ascorbic acid in human aqueous humor.	BMC Res Notes. 2024 Jun 26;17(1):179. doi: 10.1186/s13104-024-06829-1.	Journal Article
135	Umekawa K, Kurabayashi T, Asato H, et al	形成外科・美容外科	A Free Bypass Flap for Chronic Limb-threatening Ischemia.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Jun 10;12(6):e5875. doi: 10.1097/GOX.00000000000005875.	Journal Article
136	Akutsu M, Masuyama Y, Nagashima Y, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Treatment of congenital auricular fistula with local skin flaps: Two case reports.	Braz J Otorhinolaryngol. 2024 Sep-Oct;90(5):101454. doi: 10.1016/j.bjorl.2024.101454. Epub 2024 Jun 6.	Case Report
137	Naruse K	産科婦人科	Liver biomarkers and preeclampsia: an easy-accessible prediction method of the disease.	Hypertens Res. 2024 Sep;47(9):2610–2611. doi: 10.1038/s41440-024-01804-6. Epub 2024 Jul 23.	Comment
138	Naruse K	産科婦人科	How low-dose aspirin works in preeclampsia—the monumental challenge to delay and prevent the onset of the disease.	Hypertens Res. 2024 Jul;47(7):1989–1991. doi: 10.1038/s41440-024-01692-w. Epub 2024 May 15.	Comment
139	Matsuyama Y, Hayashi S, Inoue S, et al	皮膚科	Secondary extramammary Paget disease with presumed origin in the external ear's ceruminous gland.	J Dermatol. 2025 Jul;52(7):e590–e591. doi: 10.1111/1346-8138.17712. Epub 2025 Mar 27.	Letter
140	Ikegami T, Igawa K	皮膚科	Real-World Efficacy and Safety of Dupilumab Use in Japanese Adult Patients with Atopic Dermatitis: A Single-Center, Retrospective, 104-Week, Observational Study.	Diseases. 2025 Feb 3;13(2):44. doi: 10.3390/diseases13020044.	Journal Article
141	Kamiga M, Hayashi S, Ikegami T, et al	皮膚科	Hereditary angioedema with a normal C1 inhibitor in Japanese man.	J Dermatol. 2024 Sep;51(9):e298–e299. doi: 10.1111/1346-8138.17212. Epub 2024 Apr 17.	Case Report
142	Tokoro S, Ogawa T, Hayashi S, et al	皮膚科	High-resolution mass spectrometry imaging reveals skin lipid changes and the cholesterol sulphate cycle during keratinization.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Jun;38(6):e456–e458. doi: 10.1111/jdv.19621. Epub 2023 Nov 15.	Letter
143	Irisawa H, Nakamura T, Chiba Y, et al	リハビリテーション科	Factors influencing changes in body composition and nutritional status in patients with hyperacute stroke: prospective study.	Front Nutr. 2025 Mar 18;12:1548796. doi: 10.3389/fnut.2025.1548796.	Journal Article
144	Nakamura T, Kurosaki S, Baba M, et al	リハビリテーション科	Effectiveness of rehabilitation for young patients with extensive right hemisphere cerebral infarction: A report of two cases.	Clin Case Rep. 2024 Aug 12;12(8):e9328. doi: 10.1002/ccr3.9328.	Case Report
145	Takamori M, Akiyama S, Seo Y, et al	リハビリテーション科	Two synergistic types of muscles were detected during forearm rotation exercise by T(2) cumulative frequency curves using 0.2 T magnetic resonance imaging.	J Physiol Sci. 2024 Apr 15;74(1):25. doi: 10.1186/s12576-024-00920-9.	Journal Article
146	Taninaka N, Ishida K, Takada-Owada A, et al	病理診断科	A Case Study of a High-Grade Serous Carcinoma of the Fallopian Tube Transformed into Carcinosarcoma at the Site of Peritoneal Dissemination With Immunohistological Evidence of an Epithelial-Mesenchymal Transition.	Int J Surg Pathol. 2025 May;33(3):731–737. doi: 10.1177/10668969241271963. Epub 2024 Sep 17.	Case Report
147	Sotome T, Oshizaka T, Toyama T, et al	薬剤部	Permeation of Model Chemicals through Medical Gowns Used in Anticancer Drug Preparation.	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2025;73(3):227–233. doi: 10.1248/cpb.c24-00838.	Journal Article

148	Tanaka Y, Ikeda N, Niho S, et al	総合がん診療センター	Effectiveness of trastuzumab deruxtecan rechallenge in a patient with HER2-positive metastatic breast cancer: a case report.	Int Cancer Conf J. 2024 Sep 10;13(4):353-359. doi: 10.1007/s13691-024-00723-0.	Journal Article
149	Tanaka Y, Niitani T, Matsumoto T, et al	総合がん診療センター	Multiple endocrine neoplasia type 1 with MEN1 variant of unknown significance, in a patient after the diagnosed of pancreatic neuroendocrine neoplasia.	Int Cancer Conf J. 2024 Apr 16;13(3):263-267. doi: 10.1007/s13691-024-00675-5.	Journal Article

計149件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
- 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 (https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/kenkyu/rules/02.html) 事前の教育・研修、倫理審査の流れ、手続き、報告事項、モニタリング及び監査について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	令和6年度開催なし

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	e-learning
・ 研修の主な内容 ○ 「生命・医学系指針」R5改正と適正な研究遂行のポイント ○ e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では日本専門医機構が定める全19基本領域の基幹専門研修プログラムと歯科専門研修プログラムを整備し、臨床医としての専門医資格取得を目指すことが可能です。各科に経験豊富な指導医陣が多数在籍し、直接熱心な指導を実践しています。また、高度医療を行う特定機能病院でありながら、地域医療を担う中核病院としての役割も担うため、頻度の高い疾患から稀な疾患まで様々な症例を経験でき、専攻医として確実に力をつけることができるバランスのとれた専門研修を実施しています。さらに、各プログラムとも多数の連携医療機関と提携し、市中病院における研修も充実しています。

【獨協医科大学病院研修プログラム一覧】

①内科	獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム
②小児科	獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム
③皮膚科	獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム
④精神神経科	獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム
⑤外科	獨協医科大学外科専門研修プログラム
⑥整形外科	獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム
⑦産科婦人科	獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム
⑧眼科	獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム
⑨耳鼻咽喉・頭頸部外科	獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム
⑩泌尿器科	獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム
⑪脳神経外科	獨協医科大学脳神経外科プログラム
⑫放射線科	獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
⑬麻酔科	獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
⑭病理診断科	獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
⑮ゲム診断・臨床検査医学	獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
⑯救急科	獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
⑰形成外科・美容外科	獨協医科大学形成外科研修プログラム
⑱リハビリテーション科	獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
⑲総合診療科（家庭医）	獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム
⑳口腔外科（歯科医師のみ）	獨協医科大学病院口腔外科専門医・有病者歯科認定医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	102人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科、循環器内科	主任教授	32年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	36年	
今井 陽一	血液・腫瘍内科	主任教授	33年	
頼 建光	腎臓内科	主任教授	33年	
鈴木 圭輔	脳神経内科	主任教授	23年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	36年	

仁保 誠治	呼吸器・アレルギー内科	主任教授	31年	
池田 啓	リウマチ科	主任教授	27年	
志水 太郎	内科（総合診療科）	主任教授	19年	
古郡 規雄	精神科	主任教授	31年	
井川 健	皮膚科	主任教授	29年	
曾我 茂義	放射線科	主任教授	23年	
小飼 貴彦	ゲノム診断・臨床検査医学	主任教授	32年	
白石 秀明	小児科	主任教授	33年	
小嶋 一幸	外科（上部消化管外科）	主任教授	38年	
水島 恒和	外科（下部消化管外科）	主任教授	33年	
青木 琢	外科（肝・胆・膵外科）	主任教授	30年	
鈴木 完	小児外科	主任教授	26年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	37年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	39年	
阿久津 博義	脳神経外科	主任教授	27年	
種市 洋	整形外科	主任教授	38年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	33年	
妹尾 正	眼科	主任教授	38年	
中山 次久	頭頸部・耳鼻咽喉科	主任教授	23年	
三橋 暁	産婦人科	主任教授	34年	
成瀬 勝彦	産婦人科	主任教授	25年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	35年	
飯田 拓也	形成外科・美容外科	主任教授	27年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	35年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	32年	
和氣 晃司	救急科	主任教授	31年	
中川 剛士	乳腺外科	主任教授	28年	
石田 和之	病理診断科	主任教授	26年	
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	38年	歯科医師

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

<臨床検査センター>

- ・ 第8回論文検討会：2024年7月9日 19名
- ・ 栃木県立衛生福祉大学校臨床検査学科実習生臨地実習報告会：2024年7月11日 17名
- ・ 第64回日本臨床化学会年次学術集会予演会：2024年8月23日 14名
- ・ 第9回論文検討会：2024年9月10日 3名
- ・ 日本医療検査科学会第56回大会予演会：2024年10月1日 25名
- ・ 2024年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会①：2024年10月18日 20名
- ・ 2024年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会②・私立医大第41回学術研修会：2024年10月23日 27名
- ・ 栃木県医学検査学会予演会：2024年11月19日 30名
- ・ 第10回論文検討会：2024年12月3日 20名
- ・ 第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会予演会：2025年1月15日 12名
- ・ 第11回論文検討会：2025年2月4日 31名
- ・ 第12回論文検討会「catch up 遺伝子検査の運用」：2025年3月6日 19名

<放射線部>

- ・ 令和6年度 第1回役職者研修会
「つくば国際大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年6月21日（木） 時間：17：00～17：40
参加人数： 9名（臨床実習生：2名）
- ・ 令和6年度 第2回役職者研修会
「群馬パース大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年7月11日（木） 時間：17：00～17：40
参加人数： 12名（臨床実習生：3名）
- ・ 令和6年度 第3回役職者研修会
「新潟福祉医療大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年9月19日（木） 時間：17：10～17：40
参加人数： 11名（臨床実習生：1名）
- ・ 令和6年度 第4回役職者研修会
「帝京大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年10月7日（木） 時間：17：00～17：40
参加人数： 10名（臨床実習生：2名）
- ・ 令和6年度 第5回役職者研修会
「国際医療福祉大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年10月17日（木） 時間：17：00～17：40
参加人数： 7名（臨床実習生：2名）
- ・ 令和6年度 第6回役職者研修会
「順天堂大学 臨床実習終了報告」
日時：令和6年12月11日（水） 時間：17：00～17：40
参加人数： 14名（臨床実習生：1名）
- ・ 令和6年度 第7回役職者研修会

「国際医療福祉大学 臨床実習終了報告」 日時：令和6年12月12日（木） 時間：17：00～17：50 参加人数： 14名（臨床実習生：6名）		
・ 令和6年度	第8回役職者研修会	
「つくば国際大学 臨床実習終了報告」 日時：令和7年2月26日（水） 時間：17：00～17：40 参加人数： 11名（臨床実習生：1名）		
・ 令和6年度	放射線部 勉強会	
「木村主任 スリランカ教育講演記」 日時：令和6年10月18日（金） 時間：17:00～18：00 参加人数：11名		
<薬剤部> ・ インジェクショントレーナー養成研修 2024/9/20 全23名		
<看護部> ・ 別紙		
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）		
<臨床検査センター> ・ 2024年度臨床検査センター全体集会：2024年4月2日 35名 ・ 2024年度新入職向け 車椅子の扱い方：2024年4月9日 7名 ・ IS015189 感染対策：2024年8月26日から9月8日 80名 ・ IS015189 患者急変時の対応：2024年9月9日から9月22日 80名 ・ IS015189 倫理規定・患者情報の守秘義務：2024年9月23日から10月6日 80名 ・ IS015189 毒物・劇物管理、廃棄物管理：2024年10月7日から10月20日 80名 ・ IS015189 臨床検査センター医療安全講習会：2024年10月21日から11月3日 80名 ・ 臨床検査センターBLSトレーニング：2024年12月3から12月12日 80名 ・ IS015189 緊急時・災害時の対応：2024年12月9日から12月22日 80名 ・ IS015189 品質マネジメントシステム（QMS）を理解しよう：2024年12月26日から2025年1月14日 80名 ・ 術中モニタリング講習会：2025年2月10日、2月13日 14名		
<放射線部> ・ 放射線部 バイエル薬品 研修会 「Centargoデモンストレーション 説明」 日時：令和6年5月31日（金） 時間：13:00～17：00 参加人数：28名 ・ 放射線部 New ガンマカメラ 研修会 「New ガンマカメラ説明」 日時：令和6年6月20日（木） 時間：17:00～18：00 参加人数：9名 ・ 放射線部 Cアーム透視装置 研修会 「GE Cアーム OEC Elite CFD 操作説明会」 日時：令和6年7月10日～12日日 時間：17:00～18：00 参加人数：63名 ・ 放射線部 線管理システム研修会 「線管理システム Aライン 説明」 日時：令和6年7月30日（火） 時間：16:00～17：00 参加人数：6名		

- ・放射線部 乳房撮影装置 研修会
「マンモグラフィースystem Fujiフィルム 説明」
日時：令和6年8月1日(水) 時間：17:00～18:00 参加人数：15名
- ・放射線部 RIS システム 研修会
「Fujiフィルム RISシステム説明」
日時：令和6年10月15日(火) 時間：17:00～18:00 参加人数：18名
- ・放射線部 RIS システム 研修会
「富士通 RIS システム 説明」
日時：令和6年10月16日(水) 時間：17:00～18:00 参加人数：21名
- ・放射線部 乳房撮影装置 研修会
「GE マンモグラフィースystem 説明」
日時：令和6年10月17日(木) 時間：17:00～18:00 参加人数：15名
- ・放射線部 2024年 北米放射線学会 報告会
「第110回 北米放射線学会(RSNA 2024) SIEMENS報告会」
日時：令和7年2月17日(月) 時間：17:00～18:00 参加人数：19名
- ・放射線部 SIEMENS 画像処理システム 研修会
「SIEMENS Singo Via 説明」
日時：令和7年3月4日(火) 時間：17:00～18:00 参加人数：16名
- ・令和6年度 第1回役職者定例報告会
日時：令和6年4月26日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第2回役職者定例報告会
日時：令和6年5月30日(木) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第3回役職者定例報告会
日時：令和6年6月28日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第4回役職者定例報告会
日時：令和6年7月26日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：19名
- ・令和6年度 第5回役職者定例報告会
日時：令和6年8月30日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第6回役職者定例報告会
日時：令和5年9月27日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：16名
- ・令和6年度 第7回役職者定例報告会
日時：令和6年10月25日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：21名
- ・令和6年度 第8回役職者定例報告会
日時：令和6年11月28日(木) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第9回役職者定例報告会
日時：令和6年12月26日(木) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第10回役職者定例報告会
日時：令和7年1月30日(木) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第11回役職者定例報告会
日時：令和7年2月27日(木) 時間：17:00～17:30 参加人数：17名
- ・令和6年度 第12回役職者定例報告会
日時：令和7年3月28日(金) 時間：17:00～17:30 参加人数：14名

＜薬剤部＞

- ・新規採用薬説明会（副作用データベースについて）2024/4/10 全42名
- ・新規採用薬説明会（レケンビ点滴静注200mg・500mg）2024/4/24 全35名
- ・新規採用薬説明会（エブキンリ皮下注4mg・48mg）2024/5/15 全39名

- ・新規採用薬説明会（ネキソブリッド外用ゲル5g）2024/5/29 全33名
- ・新規採用薬説明会（クレセンバカプセル100mg、クレセンバ点滴静注用200mg）2024/6/12 全31名
- ・新規採用薬説明会（フォゼベル錠5mg・10mg・20mg・30mg）2024/6/26 全36名
- ・新規採用薬説明会（ウゴービ皮下注SD 0.25mg・0.5mg・1.0mg・1.7mg・2.4mg）2024/7/10 全33名
- ・新規採用薬説明会（後発品について）2024/7/24 全33名
- ・胃がん新規治療剤 ビロイ説明会（ビロイ点滴静注用100mg）2024/8/2 全11名
- ・新規採用薬説明会（コセンティクス皮下注150mgペン・300mgペン、コセンティクス皮下注75mgシリンジ）2024/8/14 全29名
- ・新規採用薬説明会（レクビオ皮下注300mgシリンジ）2024/8/28 全29名
- ・新規採用薬説明会（アイリーア8mg硝子体内注射用キット114.3mg/mL）2024/9/11 全38名
- ・新規採用薬説明会（フィコンパ点滴静注用2mg）2024/9/25 全32名
- ・新規採用薬説明会（ベイフォータス筋注50mgシリンジ・100mgシリンジ）2024/10/9 全30名
- ・新規採用薬説明会（レプロジル皮下注用25mg・75mg）2024/10/23 全37名
- ・新規採用薬説明会（ヒフデュラ配合皮下注）2024/11/13 全24名
- ・新規採用薬説明会（インフルエンザ治療薬説明会）2024/11/20 全27名
- ・新規採用薬説明会（ビロイ点滴静注用100mg）2024/11/27 全34名
- ・新規採用薬説明会（ミチーガ皮下注用30mgバイアル）2024/12/11 全28名
- ・新規採用薬説明会（アブリスボ筋注用）2024/12/25 全24名
- ・新規採用薬説明会（トレプロスト吸入液1.74mg）2025/1/15 全23名
- ・KANPO SHORT LECTURE（風邪に用いる漢方薬の使い分け）2025/1/28 全21名
- ・新規採用薬説明会（ブリエビアクト錠25mg・50mg、ブリエビアクト静注25mg）2025/1/29 全24名
- ・VR研修会（パーキンソン病患者の模擬体験会）2025/2/6、2025/2/7 全16名
- ・新規採用薬説明会（サルグマリン吸入用250μg）2025/2/12 全24名
- ・新規採用薬説明会（ロゼバラミン筋注用25mg）2025/2/26 全18名
- ・新規採用薬説明会（ブイタマークリーム1%）2025/3/12 全38名
- ・新規採用薬説明会（フリュザクラカプセル1mg・5mg）2025/3/24 全14名
- ・新規採用薬説明会（クービビック錠25mg・50mg）2025/3/26 全30名

<看護部>

- ・別紙

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

<臨床検査センター>

- ・栃木県立衛生福祉大学校 臨床検査学科実習生の臨地実習（実施要項に基づき各検査部門研修期間：2024年4月10日～7月11日（60日間） 2名

<薬剤部>

- ・薬薬連携セミナー：2024/12/23 乳がんの治療について① 全74名
- ・薬薬連携セミナー：2025/2/27 がん関連トレーニングレポート報告 全47名
- ・地域薬学ケア研修：2024/ 4/10 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/4/18 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024 4/22 精神科カンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/4/26 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/5/13 産科カンファレンス 全1名

- ・地域薬学ケア研修：2024/ 5/15 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/5/23 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/5/24 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/6/12 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/6/19 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/6/20 NSTカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/6/24 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/6/28 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/7/11 NSTカンファレンス 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/7/26 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/7/29 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/8/19 精神神経科ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/8/21 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/8/23 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/8/27 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/9/12 NSTカンファレンス 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/9/19 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/9/27 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/10/16 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/10/24 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/10/25 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/10/28 精神科カンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/11/13 緩和ケアカンファレンス 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/11/21 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/11/22 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/11/25 産科カンファレンス、精神科カンファレンス 各1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/12/16 精神科カンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2024/12/18 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2024/12/27 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/1/15 緩和ケアカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2025/1/20 産科カンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2025/1/23 NSTカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2025/1/24 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/1/31 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/2/20 論文紹介 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/2/25 論文紹介 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/2/28 病棟報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/3/17 産科カンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2025/3/26 症例報告会 全2名
- ・地域薬学ケア研修：2025/3/27 NSTカンファレンス 全1名
- ・地域薬学ケア研修：2025/3/28 病棟報告会 全2名
- ・論文セミナー：2024/5/28 全15名 城西国際大学 押坂先生
Water Soluble Vitamins Enhance the Growth of Microorganisms in Peripheral Parenteral Nutrition Solutions
- ・論文セミナー：2024/6/18 全16名 那須赤十字病院 高野先生
Isavuconazole Versus Caspofungin in the Treatment of Candidemia and Other Invasive Candida Infections: The ACTIVE Trial

- ・論文セミナー：2024/7/22 全15名 獨協医科大学病院 五月女先生
Comparable effectiveness of 45- and 20-min post-infusion scalp cooling time in preventing paclitaxel-induced alopecia - a randomized controlled trial
- ・論文セミナー：2024/8/23 全16名 獨協医科大学病院 太田先生
Comparison of Lemborexant with Placebo and Zolpidem Tartrate Extended Release for the Treatment of Older Adults with Insomnia Disorder
- ・論文セミナー：2024/10/29 全17名 那須赤十字病院 田中先生
Finerenone in Heart Failure with Mildly Reduced or Preserved Ejection Fraction
- ・論文セミナー：2024/12/25 全16名 獨協医科大学病院 猪俣先生
Molecular β -Lactamase Characterization of Aerobic Gram-Negative Pathogens Recovered from Patients Enrolled in the Ceftazidime-Avibactam Phase 3 Trials for Complicated Intra-abdominal Infections, with Efficacies Analyzed against Susceptible and Resistant Subsets
- ・論文セミナー：2025/1/31 全16名 獨協医科大学病院 齋藤先生
Platinum desensitization in patients with carboplatin hypersensitivity: A single-institution retrospective study
- ・論文セミナー：2025/3/12 全18名 那須赤十字病院 石橋先生
Comparative Outcomes of Empagliflozin to Dapagliflozin in Patients with Heart Failure

<看護部>

- ・令和6年度認定看護師等派遣事業 摂食・嚥下障害看護 2024年10月18日（金）
テーマ：獨協医科大学病院の摂食嚥下サポートシステム
桃李会 御殿山病院 参加者22名：看護師15名 他7名（ST・OT・PT・管理栄養士）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

* Web視聴は一部アクセス数カウント（視聴人数とは別）

対象者	内容	開催日	人数	合計人数
新採用看護職者	新人オリエンテーション	4月1日	141	141
	新人看護職員研修会	4月2日	140	140
		4月3日	141	141
		4月4日	138	138
		4月5日	138	138
		4月8日	137	137
		4月9日	137	137
		4月11日	137	137
		4月12日	140	140
		4月13日	140	140
全職種	看護部の方針説明会（会場）	4月17日（水）	118	1271
	看護部の方針説明会（Web配信）	5月～	1153	アクセス1601
	看護研究発表会 6月10日	会場	235	1199
		WEB	964	アクセス4265
	看護研究発表会 11月20日	会場	238	1302
		WEB	1302	アクセス4131
レベルⅠa	災害看護	5月1日（水）	141	139
	社会人基礎力	5月15日（水）	51	
		5月20日（月）	44	
		5月30日（木）	44	
	フィジカルアセスメント1	6月5日（水）	49	139
		6月21日（金）	45	
		6月27日（木）	45	
	BLS（学会認定）	9月24日	33	122
		10月22日	31	
		11月26日	31	
		12月24日	27	
	多重課題	11月7日（木）①	25	121
		11月7日（木）②	20	
		11月18日（金）①	20	
		11月18日（月）②	19	
		11月29日（金）①	19	
		11月29日（金）②	18	
	心に残る看護エピソード	1月17日（金）	44	120
		1月23日（木）	46	
		1月27日（月）	30	
レベルⅠb	コミュニケーション1 （家族とのコミュニケーション）	5月13日（月）	45	128
		5月23日（木）	42	
		5月31日（金）	41	
	フィジカルアセスメント2	6月6日（木）	44	129
		6月11日（火）	43	
		6月27日（木）	42	
	退院支援	8月12日（金）	45	131
		8月22日（火）	45	
		8月30日（水）	41	
	認知症看護	9月20日（金）	39	124
		9月26日（木）	46	
		9月30日（月）	39	
	意思決定のためのコミュニケーション	10月16日（水）	41	124
		10月24日（木）	45	
		10月29日（火）	38	
	看護を語る	11月7日（木）①	20	124
		11月7日（木）②	21	
		11月22日（金）①	20	
		11月22日（金）②	21	
		11月28日（木）①	20	
		11月28日（木）②	22	
Ⅱ	フォロアシップ（リーダーシップ1）	6月4日（火）	35	116
		6月20日（木）	42	
		6月24日（月）	39	
	急変 シミュレーション	8月2日（金）	37	111
		8月5日（月）	38	
		8月8日（木）	36	
		2月末（補講）	7	
	ケーススタディ	8月26日（月）	13	109
		8月27日（火）	13	
		8月30日（金）	12	
		9月2日（月）	11	
		9月3日（火）	11	
		9月4日（水）	11	
		9月5日（木）	10	

		9月6日（金）	10	
		9月9日（月）	11	
		9月10日（火）	7	

	ケーススタディ発表会	10月10日（木）①	28	109	
		10月10日（木）②	28		
		10月28日（月）①	28		
		10月28日（月）②	25		
	リーダーシップ	11月8日（金）	34	105	
		11月20日（水）	37		
		11月26日（火）	34		
	Ⅲ	研究入門	6月10日（月）	61	70
文献検索 文献検索・図書館活用を看護に活かす（ナースिंगスキル）		7月4日（木）	9	アクセス30	
		4月1日～			
		7月7日（金）AM	18		41
		7月7日（金）PM	14		
8月9日（火）AM		7			
8月9日（火）PM		2			
研究デザイン（量）		4月1日～配信		アクセス数141	
研究デザイン（質）					
研究アドバイス（個別相談会）		7月4日（木）	9		
研究のまとめ方・倫理審査		4月1日～配信		アクセス数134	
発表の仕方					
発表会	3月27日	4	4		
ⅢG1	倫理的視点で看護の質への取り組み ①検討 ②実践報告	7月3日（水）①	22	80	
		7月11日（木）①	16		
		7月23日（火）①	23		
		7月26日（金）①	19		
		12月6日（金）②	19	81	
		12月10日（火）②	21		
		12月12日（木）②	22		
		12月16日（月）②	19		
ⅢG2		7月3日（水）①	43	132	
		7月11日（木）①	30		
		7月23日（火）①	31		
		7月26日（金）①	28		
		12月3日（火）②	23	112	
		12月9日（月）②	37		
		12月20日（金）②	24		
		12月23日（月）②	28		
ⅢG1＆G2	倫理的視点で看護の質への取り組み ①検討	12月19日（木）①	16	68	
		1月10日（金）①	19		
		1月10日（金）①	4		
		1月17日（金）①	7		
		1月20日（月）①	12		
		1月24日（金）①	10		
教育担当者	新人・学生の思考力を伸ばす指導（WEB）	4月4日～	47	47	
	社会人基礎力（ナースिंगスキル）		47	47	
	役割	4月9日（火）	37	37	
新人教育 実施指導者	新人・学生の思考力を伸ばす指導（WEB）	4月1日～	76	76	
	皆で考えよう 新人看護職員育成と自己成長	5月17日（金）	39	79	
		5月29日（水）	40		
実習指導者	新人・学生の思考力を伸ばす指導（WEB）	4月1日～	74	74	
	実習指導者の役割	6月7日（金）	66	66	
看護補助 アシスタント	チームの一員として患者を守る・感染予防行動	4月19日（金）①	60	148	
		4月19日（金）②	30		
		4月25日（木）	58		
	第一回 看護補助者研修	情報交	7月12日（金）	34	34
	第二回 看護補助者研修 食事介助 時の姿勢調整	11月26日（火）①	21	156	
		11月26日（火）②	21		
		11月26日（火）③	19		
		12月4日（水）①	19		
		12月4日（水）②	20		
		12月4日（水）③	17		
		12月13日（金）①	22		
12月13日（金）②	21				
師長・主任研修会	臨床倫理（組織の風土・事例検討方法）	6月16日（木）	60		
師長研修	新人・後輩のアセスメント力を育む指導＝看護師の思考を培育するOJT-（WEB）	3月14～5月14日	49	49	
	日常に潜む倫理（WEB）	8月20日～11月15日	49	49	
	身体拘束最小化の基礎（WEB）	12月3日～1月31日	49	49	
	令和6年度改定対応診療報酬・介護報酬のしくみと考え方	12月3日～3月3日	49	49	
	管理者が知ってほしい「適時調査」傾向と対策	1月16日（木）	30	40	
		1月22日（水）	10		

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
管理責任者氏名	病院長 麻生好正		
管理担当者氏名	庶務課	手塚 節子	医事保険課
	診療記録管理部	石橋 広昭	医事保険課
	医療連携部門	水沼 良太	医療安全推進センター
	経理課	黒川 慎哉	感染制御センター
	薬剤部	臼井 悟	臨床研修センター
			車田 みゆき
			海老原 充生
			篠原 君夫
			麻生 保
			松浦 譲

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	診療録は、1 患者 1 I D 制で診療記録管理部が一元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。
		各科診療日誌	庶務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療記録管理部	
		看護記録	診療記録管理部	
		検査所見記録	診療記録管理部	
		エックス線写真	診療記録管理部	
		紹介状	診療記録管理部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
		高度の医療の提供の実績	医事保険課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
		高度の医療の研修の実績	庶務課	
		閲覧実績	臨床研修センター	
		紹介患者に対する医療提供の実績	庶務課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療連携部門	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事保険課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事保険課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	薬剤部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター FD・SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
管理者が有する権限に関する状況	庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 麻生 好正
閲覧担当者氏名	庶務課長 手塚 節子
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要	
① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出	
② ①により、病院長までの上申	
③ ②により、本人確認(身分証明書等の提示)の後に情報開示	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0件
閲 覧 者 別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有・無
・ 指針の主な内容： ○医療安全管理に関する基本的な考え方 ○組織に関する基本的事項 ○医療安全推進センターの設置に関する基本方針 ○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針 ○監査委員会による外部監査に関する基本方針 ○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針 ○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針 ○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 ○本指針の改廃	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ ☒有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ○医療に係る安全管理のための指針（基本方針）に関すること ○医療安全管理委員会の規程に関すること ○医療安全対策の検討及び研究に関すること ○医療事故の調査・分析及び再発防止策の立案、実施、周知に関すること ○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ○医療安全対策の実施状況の調査、確認に関すること ○医療事故防止のための啓発、教育、広報に関すること ○監査委員会からの指摘に関すること ○内部通報窓口の設置に関すること ○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること ○院内巡視（ラウンド）に関すること ○病院長への報告基準（全死亡事例の報告及び一定水準以上の有害事象等の報告）に関すること ○その他医療安全対策に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年80回
・ 研修の内容（すべて）： ○開催日；令和6年4月1日、4月5日 形態；新規採用者オリエンテーション （医師、看護師、その他職種） テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」 「当院における個人情報保護について」 「医薬品安全管理について」 「医療機器安全管理について」 講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人 医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江	

薬剤部 部長 医薬品安全管理責任者 臼井 悟
臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；213名

○開催日；令和6年4月7日

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」
「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

参加者；49名

○開催日；令和6年4月～令和7年3月（新規入職時／随時） 全70回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」
「当院における個人情報保護について」
「薬剤管理について」
「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人、西野節

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江

医療安全推進センター 医療安全管理者 椎名治揮

臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；229名 うち、医師 11名、その他医療従事者 218名

○開催期間；令和6年4月1日～令和7年3月31日

形態；2024年度セイフティマネージャー研修 心理的安全性①

テーマ；「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき」

開催方法；eラーニング

参加者；71名（対象；2024年度セイフティマネージャー）

○開催期間；令和6年4月1日～令和7年3月31日

形態；2024年度セイフティマネージャー研修①

テーマ；「医療安全」3つの柱（人は誰でも間違える）

開催方法；eラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；101名（対象；2024年度セイフティマネージャー）

○開催期間；令和6年4月1日～令和7年3月31日

形態；2024年度セイフティマネージャー研修②

テーマ；「医療安全」3つの柱（失敗から学ぶ）

開催方法；eラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；101名（対象；2024年度セイフティマネージャー）

○開催期間；令和6年4月1日～令和7年3月31日

形態；2024年度セイフティマネージャー研修③

テーマ；「医療安全」3つの柱（情報を共有する）

開催方法；eラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；101名（対象；2024年度セイフティマネージャー）

○開催期間；令和6年6月17日～令和6年7月31日

形態；講習会（第1回医療安全講習会）

講師；病院長 麻生好正

医療安全推進センター長 福田宏嗣

テーマ；「医療安全・一般領域」

開催方法；eラーニング＋学習効果判定テスト

参加者；2,169名

○開催期間；令和6年7月30日、8月19日～令和6年10月31日 形 態；講習会（第2回医療安全講習会） 講 師；宮崎医学部社会医学講座 生命・医療倫理学分野 教授 板井 孝彦 氏 テ ー マ；「少ない人員で医療安全をどう守るか」 開催方法；Web開催、e-ラーニング＋学習効果判定テスト 参 加 者；2, 148名 ○開催期間；令和6年9月11日、9月30日～令和6年11月30日 形 態；講習会（第3回医療安全講習会） 講 師；近畿医科大学病院 安全管理センター・医療安全対策部 近畿大学医学部血液・膠原病内科 教授 辰巳 陽一 先生 テ ー マ；「心理的安全性 ～なぜ心理的安全性のない組織は危ういのか?～」 開催方法；Web開催、e-ラーニング＋学習効果判定テスト 参 加 者；1, 829名 ○開催期間；令和6年11月27日、12月9日～令和7年1月31日 形 態；講習会（第4回医療安全講習会） 講 師；獨協医科大学 教育支援センター 医事法制研究室 学内講師 上杉 奈々 先生 テ ー マ；「適切な個人情報の取り扱いを振り返ってみよう（R6年度版）」 開催方法；Web開催、e-ラーニング＋学習効果判定テスト 参 加 者；1, 748名 ○開催期間；令和6年2月26日～3月31日 形 態；講習会（第5回医療安全講習会） 講 師；小グループ代表者6名 テ ー マ；「セイフティマネージャー小委員会活動内容報告」 ①グループ；心電図モニター関連 ②グループ；インシデント報告 ③グループ；医療事故検討 ④グループ；転倒・転落対策 ⑤グループ；薬剤アラート関連 ⑥グループ；院内ラウンド 開催方法；e-ラーニング＋学習効果判定テスト 参 加 者；611名
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1）標準化・規則化等の推進 2）定期的な医療安全管理部門広報誌の発行（1回／月） 3）医療安全推進センターによる院内ラウンド 4）医療安全講習会の理解度確認のためのe-ラーニングの実施 5）必要に応じたRCA分析、POAM分析の実施

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ 有 ・ 無												
・ 指針の主な内容： 制定 平成 19 年 10 月 1 日 改訂 平成 24 年 1 月 18 日 改訂 平成 27 年 10 月 1 日 改訂 平成 30 年 4 月 1 日 改訂 平成 31 年 2 月 1 日 改訂 令和 5 年 7 月 11 日 改訂 令和 7 年 4 月 1 日 ○院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ○院内感染防止に関する基本的事項 ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための 方策に関する基本方針 ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ○患者さん等に対する当該指針の閲覧にする基本方針 ○その他感染制御の推進のために必要な基本方針													
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回												
・ 活動の主な内容： 1) 院内ラウンドの報告 2) 病原体の検出報告（MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等） 3) 感染症治療薬使用状況（毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬） 4) ASTからの注意喚起 5) 針刺し切創、皮膚粘膜汚染報告 6) 感染症発生報告書提出状況 7) 新型コロナウイルス感染症等報告 8) その他 ・ 開催状況： <table border="0"> <tr> <td>第1回 令和6年4月30日</td> <td>第 7回 令和6年10月29日</td> </tr> <tr> <td>第2回 令和6年5月28日</td> <td>第 8回 令和6年11月26日</td> </tr> <tr> <td>第3回 令和6年6月25日</td> <td>第 9回 令和6年12月24日</td> </tr> <tr> <td>第4回 令和6年7月30日</td> <td>第10回 令和7年 1月28日</td> </tr> <tr> <td>第5回 令和6年8月27日</td> <td>第11回 令和7年 2月25日</td> </tr> <tr> <td>第6回 令和6年9月24日</td> <td>第12回 令和7年 3月25日</td> </tr> </table>		第1回 令和6年4月30日	第 7回 令和6年10月29日	第2回 令和6年5月28日	第 8回 令和6年11月26日	第3回 令和6年6月25日	第 9回 令和6年12月24日	第4回 令和6年7月30日	第10回 令和7年 1月28日	第5回 令和6年8月27日	第11回 令和7年 2月25日	第6回 令和6年9月24日	第12回 令和7年 3月25日
第1回 令和6年4月30日	第 7回 令和6年10月29日												
第2回 令和6年5月28日	第 8回 令和6年11月26日												
第3回 令和6年6月25日	第 9回 令和6年12月24日												
第4回 令和6年7月30日	第10回 令和7年 1月28日												
第5回 令和6年8月27日	第11回 令和7年 2月25日												
第6回 令和6年9月24日	第12回 令和7年 3月25日												

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の内容（すべて）： ○（全教職員対象）感染防止対策講習会（AST講習会含む） 第 1 回 講義形式：Safety Plus（e-ラーニング） 配信期間：令和 6 年 4 月 22 日（月）～令和 7 年 3 月 31 日（月） 内 容：標準予防策 講 義 1：感染制御センターについて 講 師：仁保誠治（感染制御センター・センター長） 講 義 2：標準予防策は超重要 講 師：福島篤仁（感染制御センター・副センター長/感染症専門医） 講 義 3：職業感染対策～針刺し防止機能付き器材を正しく使用する～ 講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師長/PNIPC） 受 講 数：2,729 名 第 2 回 講義形式：Safety Plus（e-ラーニング） 配信期間：令和 6 年 6 月 12 日（水）～ 令和 6 年 12 月 28 日（土） 内 容：抗菌薬適正使用・感染防止対策 講 義：抗菌薬に適正使用 講 師：福島篤仁（感染制御センター・副センター長） 受 講 数：2,001 名 第 3 回 講義形式：Safety Plus（e-ラーニング） 配信期間：令和 6 年 8 月 5 日（月）～令和 7 年 3 月 31 日（月） 内 容：性感染症について 講 義：誰もができる尿路性器感染症対策、梅毒流行を知る 講 師：別納弘法（泌尿器科学・講師/感染制御センター兼務） 受 講 数：2,585 名 第 4 回 講義形式：Safety Plus（e-ラーニング） 配信期間：令和 6 年 11 月 5 日（火）～令和 7 年 3 月 31 日（月） 内 容：抗菌薬適正使用・感染防止対策 講 義 1：AWaRe分類 講 師：長岡 匠（感染制御センター・薬剤師主任） 講 義 2：抗菌薬適正使用と適切な検体採取 ～検体提出前に状態を見てみよう 新たな発見あるかも?!～ 講 師：岡本友紀（感染制御センター・臨床検査技師主任/ICMT） 受 講 数：2,195 名 第 5 回 講義形式：①会場参加 ② Safety Plus（e-ラーニング） ①開催日：令和 6 年 11 月 13 日（水）17 時 15 分～18 時 ①会 場：30 周年記念館 関湊記念ホール ②配信期間：令和 6 年 11 月 25 日（月）～令和 7 年 3 月 31 日（月） 内 容：小児の感染症 講 義：小児の感染症 ～知って納得！感染症の予防～ 講 師：福島啓太郎（小児科学・講師/感染制御センター兼務） 受 講 数：1,584 名	

○新入職者オリエンテーション

〈医師・レジデント対象〉

日 時：令和 6年 4月 1日(月) 医師：14時40分～15時10分、
レジデント：15時30分～16時

場 所：大学会議室No.2

内 容：講義「当院における感染対策」「血液培養」「感染症届出について」
「抗菌薬適正使用」「Cov2に関する検査」

講 師：岡本友紀（感染制御センター・臨床検査技師主任/ICMT）
長岡 匠（感染制御センター・薬剤師主任）

人 数：33名

〈医師以外の医療従事者（看護師、事務員、他の医療専門職）〉

日 時：令和 6年 4月 1日(月)

場 所：関湊記念ホール

内 容：講義「当院における感染対策」

講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師長/PNIPC）

人 数：180名

○新入職看護師対象オリエンテーション

日 時：令和 6年 4月 4日(木) 9時～12時

場 所：関湊記念ホールおよびホワイエ

内 容：講義・演習「感染対策について～患者の安全を守るために」

講 師：松浦美和、早川千亜紀、高橋雅子（感染制御センター/PNIPC、看護師）
看護部教育係

人 数：138名

○研修医オリエンテーション

日 時：令和 6年 4月 4日(木) 13時～15時

令和 6年 4月 9日(火) 13時～17時

場 所：教育医療棟6階シミュレーション講義室

内 容：講義	①感染制御について	福島篤仁（医師・感染症専門医）
	②臨床微生物検査	岡本友紀（臨床検査技師/ICMT）
	③抗菌薬の基礎	長岡 匠（薬剤師）
	④当院における感染防止対策	松浦美和（PNIPC）
	⑤職業感染対策	松浦美和（PNIPC）

人 数：49名

○中途採用・復帰者対象オリエンテーション

開催日：毎月1日（休みの場合は、翌日）および随時

所要時間：30分、但し、看護補助は演習もあるため50分

内 容：医師）講義：「当院における感染対策」「血液培養」「感染症届出について」
「抗菌薬適正使用」「Cov2に関する検査」

医師以外）講義：「当院における感染対策」

看護補助）講義：「当院における感染対策」

演習：「病院とあなたを守る感染対策を学ぶ」

講 師：医師担当：岡本友紀（感染制御センター・臨床検査技師主任/ICMT）
長岡 匠（感染制御センター・薬剤師主任）

医師以外：松浦美和、早川千亜紀（感染制御センター・PNIPC）

人 数：医師 10名、臨床研修医 1名、医師以外 114名、派遣職員 107名

○看護補助対象研修

日 時：令和 6年 4月19日(木)、4月25日(木) 各日 14時～
場 所：病院3階大会議室
内 容：講義・演習「病院とあなたを守る感染対策を学ぶ」
講 師：松浦美和、早川千亜紀、高橋雅子（感染制御センター/PNIPC、看護師）
看護部教育係
人 数：114名

○看護補助アシスタント対象研修

日 時：令和 6年 4月19日(金) 16時～
場 所：病院3階大会議室
内 容：講義・演習「病院とあなたを守る感染対策を学ぶ」
講 師：松浦美和、早川千亜紀、高橋雅子（感染制御センター/PNIPC、看護師）
看護部教育係
人 数：29名

○委託業者対象講習会

＜清掃勤務対象＞

日 時：令和 6年8月19日(月)～ 9月19日(木)
各日2回 11時～11時20分、11時30分～11時50分
場 所：エネルギー棟3階 清掃部門事務室
内 容：講義「当院における感染防止対策（清掃担当者Ver）」
講 師：松浦美和、早川千亜紀（感染制御センター・PNIPC）
人 者：106名

＜警備・売店・SPD・レストラン等勤務対象＞

日 時：令和 6年 7月29日(月)～ 8月 6日(火)
各日2回 10時30分～10時50分、 15時～15時20分
場 所：病院3階大会議室
内 容：講義「当院における感染防止対策」
講 師：松浦美和、早川千亜紀（感染制御センター・PNIPC）
人 数：180名

＜時間外救急部事務対象＞

日 時：配属日当日、16時～16時20分
場 所：病院3階中会議室No.1またはNo.2
内 容：講義「当院における感染防止対策」
講 師：松浦美和、早川千亜紀（感染制御センター・PNIPC）
人 数：14名

○医学部学生（1学年）対象

開催日：令和 6年 6月18日(火)
場 所：大学教室棟 201教室
内 容：講義「病院環境の感染対策」
講 師：松浦美和（感染制御センター・PNIPC）

○学生アルバイト対象

日 時：令和 6年 7月30日(火)、12月13日(金)、令和7年 1月31日(金)
17時15分～17時45分

場 所：病院3階中会議室No. 1

内 容：講義「病院とあなたを守る感染対策を守る」

講 師：松浦美和、早川千亜紀、高橋雅子（感染制御センター/PNIPC、看護師）

受講者：42名

○薬剤部実習生対象

開催日：薬剤部実習期間内

所要時間：1時間

場 所：病院3階中会議室No.1

内 容：講義①「当院の感染対策」

講義②「知っておくと役立つ臨床微生物」

講 師：①松浦美和（感染制御センター・PNIPC）

②岡本友紀（感染制御センター・ICMT）

受講者：10名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

臨床検査センターから血液培養や耐性菌の異常値データが感染制御センターにその都度報告される。感染制御センターではデータをもとに、電子カルテやセンター内に設置した微生物検査室の端末にて情報を収集し、各職種がレポート等に纏め抗菌薬適正使用に向けた介入や感染対策を講じている。

さらに入院患者、および職員とその家族等の感染症罹患に関する情報については、報告書の提出や部署から直接報告を受ける体制が整えられており、速やかに感染対策を講じることができる。

新型コロナウイルス感染症で個室隔離を必要とする患者の病室には、ピクトグラムを掲示している。ピクトグラムは感染制御センターで管理し、必要に応じて病棟へ渡している。

電子カルテの感染症管理支援ライブラリーを、デバイスサーベイランスや院内ラウンドなどで活用している。

集団感染など疑う事例は、保健所へ速やかに情報提供し相談するなど連携をとっている。

感染症の発生状況や感染対策について、院内感染防止対策委員会やICT会議において報告・周知を図るとともに、院内感染防止対策マニュアルの更新などすすめている。また、院内への周知・伝達に関しては、ICTニュースの配布、学内専用ホームページで①院内感染防止対策マニュアル、②ICTニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム(AST)からの注意喚起を掲載し情報提供している。

新型コロナウイルス感染症については五類へ移行しているものの、院内での体制を以前同様に以下の対策をとっている。

- ・ 新型コロナウイルス感染症関連情報における周知方法の構築
- ・ 医療物資の一元管理
- ・ PCR検査体制のシステム化
- ・ 教員、職員、学生の体調不良時の際の受診方法のシステム化
- ・ 一般患者受入れの際のリスク分類の明確化
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ時のシステム化と患者受入れの時の病床整備、病院

衛生環境方法の統一化

- ・ 患者の回復に合わせた病床選択
- ・ 危機管理会議の開催など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
研修の主な内容： 第1回医薬品安全講習会 医薬品副作用被害救済制度 ～薬を使うすべての方に知ってほしい制度です～ 第2回医薬品安全講習会 病棟における麻薬管理について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	- 手順書の作成 (☒有・無) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、薬剤部における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・周知、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、血液浄化部門、臨床検査部門、画像診断部門、外来化学療法部門、歯科領域、他施設との連携、在宅患者への医薬品使用、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、放射線医薬品、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用について、医薬品関連の情報システムの利用
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	- 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 未承認薬については使用事例なし 過敏性肺炎の疾患進行抑制目的にミコフェノール酸モフェチル並びにアザチオプリンの使用（適応外使用） - その他の改善のための方策の主な内容： 院内採用薬の削減 病棟定数薬の削減（特にハイリスク薬） 救急カートの薬品については、心肺蘇生に目的を限定し配置 KCL運用マニュアルの作成 筋弛緩薬の運用は麻薬に準じた運用としている 調剤取り揃え防止のため、バーコード認証による確認体制を周知徹底 TPN高カロリー輸液の調製を全日全病棟で実施

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 6 回
・ 研修の主な内容： 当該医療機器の有効性、安全性、使用方法、保守点検、不具合時の対処方法、禁忌事項に関する項目を中心に研修を実施している。集合形式の研修会の他に、より多くの職員が研修受講できるように機種によってはe-ラーニングを使用した研修を実施している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (☒ 有 ・ 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 使用前点検：外観点検及びセルフチェックなど。使用中点検：医療機器の設定/作動状況を確認する点検。使用后点検：機器使用後に安全性劣化や性能等（故障や破損）の問題を発見する点検。定期点検：日常点検と異なり詳細な点検や消耗部品の交換等により機器の性能を確認すると共に次回点検までに性能の維持を確保するために行う。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： GEセンターにて一元管理している医療機器に関しては添付文書及び簡易取扱説明書を医療機器管理システムにて管理している。また機器の使用者が添付文書等確認しやすいように電子カルテからも閲覧できるようになっている。 メーカーやPMDA等より院内で使用している医療機器の不具合情報を得た場合には、使用部署を確認し情報提供および回収等の処置を行う。特にクラスⅠの回収情報を得た場合には院内で使用している、していないは問わず関連部署及び病院管理者まで報告する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 病院長から任命を受けた副院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者、医療安全推進センター長、医療安全管理委員会委員長を務め、医療安全推進センターを兼務する医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 電子カルテ上に「薬剤部」のページを作り、その情報を更新。（厚労省関連情報、医薬品情報、薬剤部関連情報、PMDA 関連情報等） 院内の各部署、診療科の代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信。 庶務課を介し、院内の各部署、診療科へ書面を作成し配布。 緊急性の高い緊急安全性情報、安全性速報については情報入手後、前記2ルート（メール配信、書面での配布）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。 医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。 また、薬事委員会で報告する。 医薬品の回収命令については、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を経由して病院長へ報告。 自主回収、製造販売中止などの情報入手時は、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を随時実施する。 採用医薬品については3年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は1年ごとに追補版を作成し配布。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認新規医薬品評価委員会の開催 文献や国内外の使用実績、ガイドラインの確認	

インフォームドコンセント文書の整備

投与前、投与後、退院時、3 か月後にモニタリング

委員会が審査を行った申請に関する審査資料の管理

・担当者の指名の有無（☒有・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：医療安全管理部門，職種 医師 ）

（所属：医療安全管理部門，職種 薬剤師 ）

（所属：医療安全管理部門，職種 看護師）

（所属：医療安全管理部門，職種 事務 ）

（所属：心臓血管内科/循環器内科，職種 医師）

（所属：血液・腫瘍内科，職種 医師 ）

（所属：皮膚科，職種 医師 ）

（所属：下部消化管外科，職種 医師 ）

（所属：整形外科，職種 医師）

（所属：薬剤部 ，職種 薬剤師 ）

（所属：看護部，職種 看護師）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ☒有・無 ）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者（以下、「責任者」という。）を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会（以下、「IC委員会」という。）を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、状況に応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

☒有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

①診療録等の記載内容（質的監査・量的監査）の確認を定期的に行い、診療記録管理委員会で点検結果を報告するとともに、記載内容が十分でない事例が認められる場合は、当該事例を各部

署に周知し改善要請を行う。改善が見られない場合は必要に応じ、診療録管理責任者より所属長に改善要請を行う。

②退院サマリーの作成状況の把握と早期作成の推進

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

☒ 有 ・ 無

・ 所属職員：専従（１０）名、専任（ ）名、兼任（１０）名

うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（６）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名

うち看護師：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること

・ 活動の主な内容：

○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関すること

○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること

○医療事故防止対策マニュアルに関すること

○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関すること

○発生した医療事故への対応に関すること

○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関すること

○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換

○医療事故等に関する患者及び家族への対応

○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること

○その他医療安全管理に関すること

毎朝、インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話で状況を確認している。また、状況に応じて事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント発生防止に努めている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（２１件）、及び許可件数（２１件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
 - 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（３８件）、及び許可件数（３８件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年７２２件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及

び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 7 2 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

《所掌業務》

○医療安全対策の検討及び研究に関すること

○医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること

○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること

○医療安全対策のために行う提言に関すること

○医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

○その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

○インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。

○検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。

○医療安全対策のための教育及び研修を行う。

○医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。

○インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：がん研有明病院、日本大学医学部付属板橋病院）
・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：がん研有明病院、日本大学医学部付属板橋病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

助言内容：がん研有明病院

インシデント・アクシデント報告数は病床数に対しては少なく、病院としての目標値を設けて管理されることが望ましいと考えます。貴院の病床数に当てはめると最低の目標値は 7,900 件以上、理想は 9,800 件以上が一つの指標になります。インシデント・アクシデント報告件数を増やす方策としては、過失の有無を問わず、病院の管理者が定めた重大事例や注意すべき事例などは職種を問わず病院に勤務する職員の業務として報告を義務化することも有効です。

助言対応 医療文化を根付かせ全職員の意識改革に努め、目標値に向けて工夫していく。ヒヤリハット事例を増やすよう軽微な事例も報告する文化を根付かせるよう啓発を続ける。また、医師に対しては上級医や研修医の年報告数設定を義務化し、学生教育から医療安全教育を推進し、報告文化の定着を図りたい。 助言内容：日本大学医学部付属板橋病院 医療技術実施後のモニタリングや、退院後のモニタリングが実施されていると思います。転院や他院通院後のモニタリングについて検討が進められると良い。 助言対応 転院や他院通院後のモニタリングは情報面で厳しい状況ではあるが、鋭意検討していきたい。
--

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 病院 1 階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 上記「規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 ○研修会名；2024年度特定機能病院管理者研修事業 初回研修 受講者；医療機器安全管理責任者 継続研修

受講者；管理者（病院長）、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全責任者

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構

訪問審査受審（一般病院3）：2023 年 8 月 3 日（木）～5 日（土）の 3 日間

認定期間：2023 年 11 月 1 日～2024 年 10 月 31 日（認定 JC71-5 号）

認定期間：2024 年 10 月 1 日～確認審査中

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

学外には公表していないが、学内には公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

1. 医師に対して、医療の質と安全向上を目的としたインフォームド・コンセントに関する教育・指導を実施した。モニタリングチェック用紙の見直しを行った。
2. 患者情報を医療情報センターから一元的に払い出す運用として、ワークフローを用いた申請・承認のうえ、情報処理室より払い出す運用に切り替えた。匿名化した情報の持ち出しは所属長の承認を得て取り出し、匿名化しない場合の持ち出しは、所属長の承認に加えて病院長の承認を得る運用とした。
3. 画像診断の読影率の向上について、診療マンパワー補強、読影優先度のトリアージ、IVR 体制の拡充・大学病院としての機能正常化、膨大な読影データの削減、機器による読影作業の効率化を図った。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 臨床医学の講座主任教授 医療安全確保のために必要な資質・能力として医療安全管理業務の経験や患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者 病院を管理運営する上で必要な資質・能力を有し、病院内外での組織管理経験を有する者 - 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 公表の方法 規程集に掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ ・ 無
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 公表の方法 https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
吉田 謙一郎	学長	○	学長（規程第7条第1号）	有・ ☒ 無
奥田 泰久	副学長 埼玉医療センター 病院長		副学長（規程第7条第2号） 埼玉医療センター病院長（規程第7条第4号）	有・ ☒ 無
種市 洋	副学長 医学部長		副学長（規程第7条第2号）	有・ ☒ 無
麻生 好正	大学病院長		大学病院長（規程第7条第3号）	有・ ☒ 無
山口 悟	日光医療センター 病院長		日光医療センター病院長（規程第7条第5号）	有・ ☒ 無
坂本 悦男	事務局長		事務局長（規程第7条第6号）	有・ ☒ 無
入澤 篤志	内科学（消化器） 教授		医学部教授会から選出された臨床医学講座の主任教授（規程第7条第7号）	有・ ☒ 無
福田 宏嗣	心臓・血管外科学 教授			有・ ☒ 無

千田 雅之	呼吸器外科学教授			有・無
小沼 一郎	栃木県医師会長		学長が委嘱する学外有識者（規程 第7条第8号）	有・無
岩佐 景一郎	栃木県保健福祉部 長			有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。 (1) 病院の経営に関する事項 (2) 病院の運営に関する事項 (3) 病院の将来計画に関する事項 (4) 病院の診療体制に関する事項 (5) その他診療に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 毎月、診療部長会・病院連絡会を開催し、概要を報告している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・公表の方法 規程集に掲載している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☒無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
坂本 悦男		事務	事務局長
麻生 好正	○	医師	病院長
福田 宏嗣		医師	副院長
入澤 篤志		医師	副院長
千田 雅之		医師	副院長
仁保 誠治		医師	副院長
臼井 悟		薬剤	薬剤部長
小松 富恵		看護	看護部長
伊藤 公三		事務	事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進担当、院内感染防止対策担当、病床管理担当、病院機能評価担当
手術運営担当

院長補佐：看護体制担当

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ ・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 公表の方法： ホームページにより公開（https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/）					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	宇都宮済生会病院	○	・ 医療に関わる安全管理に関する識見を有する者 ・ 済生会宇都宮病院院長であり、病院管理者として医療安全管理に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有しているため	有・ ☒ 無	1
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		・ 法律に関する識見を有する者 ・ 弁護士として医療関係（医療機関側）を中心とした豊富な経験に基づく十分な実績がある識者のため	有・ ☒ 無	1
関根 房三	社会福祉法人		・ 医療を受ける者	有・ ☒ 無	2

	社会福祉協議会 会長		の代表者 ・栃木県保健福祉 部出身の識者で あり医療を受け ている立場で意 見することが出 来るため		
石田 和之	獨協医科大学 病理診断学 教授		・医療に関する学 識経験者 ・病理学診断学・ 教授として医療 に関する豊富な 経験を有してお り、内部監査室長 の経験を有して いるため	☒ 有・無	1
小飼 貴彦	獨協医科大学 ゲノム診断・臨 床検査医学 教授		・医療に関する学 識経験者 ・ゲノム診断・臨 床検査医学・教授 として病気の診 断や治療経過の 評価に必須な検 査に携わり客観 的立場で監査す ることが可能で あるため	☒ 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会にて管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 規程集に掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 ○医療安全推進センターによる院内ラウンド時に窓口についての認知度確認及び広報活動を実施。 ○教職員が必ず携帯するポケットマニュアルへの情報掲載。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画（8期計画）に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やHP、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。 また、栃木県及び国の委託事業にも積極的に参加し、県民及び国民のために尽力を尽くしている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科（心臓・血管内科／循環器内科、腎臓・高血圧内科、心臓・血管外科）の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では糖尿病センター、ロボット手術支援センター、アレルギーセンター及び肥満症治療センターを設置するなど、中央部門に27センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者さまにより分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。	